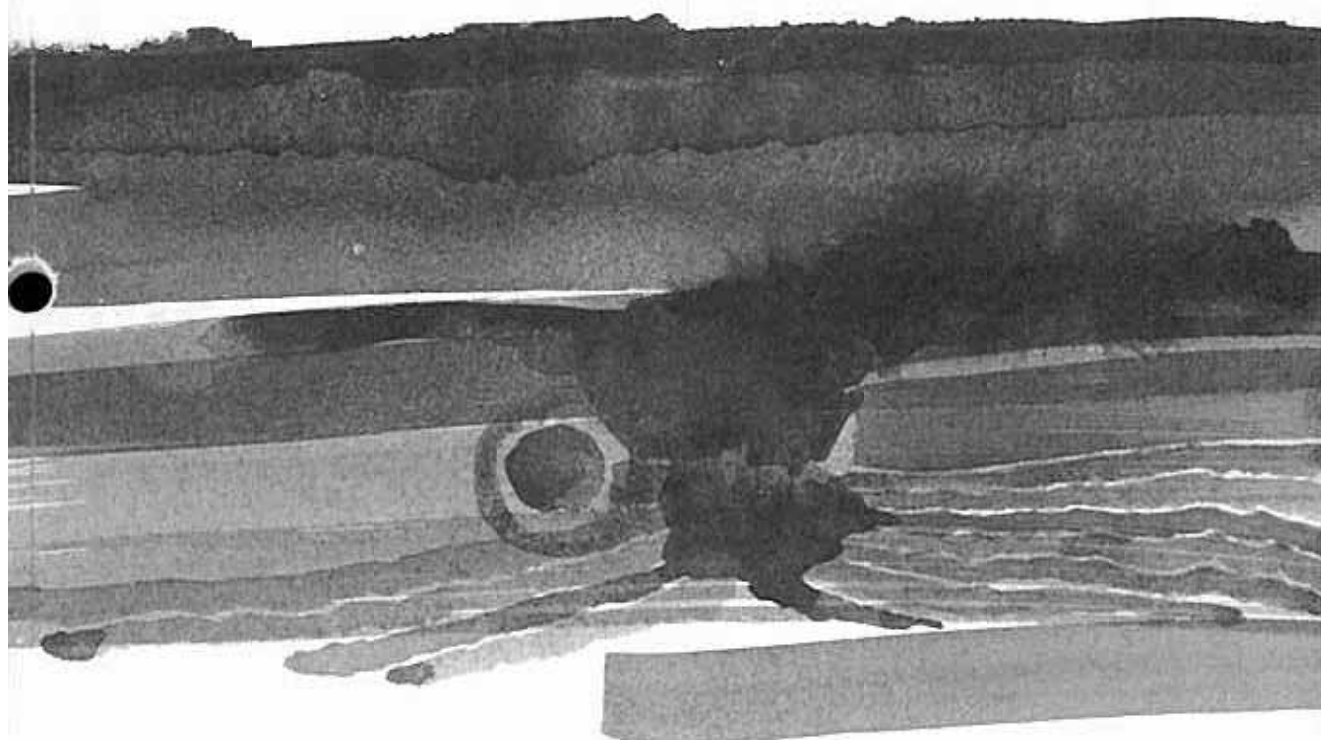


昭和48年度

佐賀県立博物館年報



No. **4**



佐賀県立博物館全景

目 次

はじめに	1
管理の概況	2
1. 本館の沿革	2
2. 博物館日誌	3
3. 規模および施設	6
4. 組織	7
5. 博物館協議会	8
6. 昭和48年度歳出予算	9
事業の概況	10
1. 常設展	10
2. 企画展	16
3. 昭和48年度観覧者数	52
4. 普及活動	53
5. 発掘調査	56
資料の概況	58
1. 昭和47年度末資料の概況	58
2. 昭和48年度購入資料	60
3. 昭和48年度寄贈資料	62
4. 昭和48年度寄託資料	63
茶室の発足と管理の概況	67
1. 茶室「清恵庵」の発足	67
2. 茶室「清恵庵」の管理の概況	69
昭和49年度の事業計画	75
案内図	76

は　じ　め　に

昭和45年10月に開館してから3年半、当館の運営もさきやかながら軌道に乗せることができましたと思います。

これ、ひとえに博物館協議会委員の皆様をはじめ、各関係機関、団体のご支援ご協力の賜物であると厚く謝意を表します。

昭和48年度は常設の「佐賀県の歴史と文化展」の充実をはかりましたほか、「装飾古墳壁画展」「日本近代文学展」「鍋島藩窯展」「郷土の先覚者書画展」等を特別に企画し、広く県民に公開するとともに各部門の研究者、佐賀大学、資料所蔵者各位のご協力を得てそれぞれの図録も刊行頒布することができました。

また、外部機関との連けい企画では「日展」「マルケ展」のほか、「県展」「理科作品展」「美協60周年記念展」「九州沖縄工芸秀作展」等の開催について積極的に参画共催し、それぞれ所期の展観実績をあげることができました。

しかしながらこれを以てじゅうぶんではなく、今後更に職員一丸となって博物館資料を充実整備、研究体制の強化、展観事業の質的改善、量的拡大をはかるとともに普及活動、教育活動を一層充実し事業効果の伸展を期するよう努力する必要があると反省しています。

また、昭和48年10月には、郷土の先輩であられる故市村清先生のご遺志により市村幸恵夫人から茶室『清恵庵』のご寄贈を受けました。この茶室は堀口捨己先生の設計によるものであります。

おかげさまで、その利用についても一般に周知されてまいりまして、使用者、見学者等漸次増加し県民に大へん喜ばれていることをご報告し併せて茶室『清恵庵』の利用管理の万全を期したいと存じます。

ここに、昭和48年度の事業概要を集録しご報告申しあげるに際し、諸賢各位のますますのご支援ご叱正を賜わりますようお願い申し上げます。

昭和49年6月

館　長　大　園　弘

管 理 の 概 況

１．本館の沿革

昭和23年4月1日	佐賀県中央公民館設置条例に基づき、中央公民館設置。
昭和26年4月1日	中央公民館設置条例が廃止され、佐賀県文化館設置条例に基づく県文化館が設置される。
昭和35年4月1日	佐賀県文化館設置条例を、博物館登録のため改正。博物館法第10条に基づき、佐賀県文化館を博物館として登録する。 明治百年記念事業として県立博物館を建設することになり、佐賀大学教育学部跡を敷地に選定、昭和42年度に設計を委託し、建設計画に着手し、昭和43年度から45年度にわたる継続事業として建設することになる。
昭和44年1月21日	佐賀県博物館建設整備委員会を設置。
昭和44年1月23日	佐賀県立博物館起工式。
昭和45年4月1日	佐賀県文化館設置条例廃止。 佐賀県立博物館設置条例公布。 佐賀県教育庁博物館開設準備事務局設置。
昭和45年7月1日	佐賀県立博物館竣工。 佐賀県立博物館設置条例施行。 博物館開設準備事務局廃止。 博物館職員の発令、館長以下18名。 佐賀県立博物館協議会条例施行。
昭和45年7月16日	佐賀県立博物館協議会委員を任命。
昭和45年10月14日	佐賀県立博物館開館記念式挙行。
昭和45年10月15日	開館記念「桃山・江戸美術名作展」開催。11月3日まで。
昭和46年2月20日	開館記念「化石展」開催。3月25日まで。
昭和46年4月1日	職員の宿直制を廃止し、警備会社に夜間警備委託を実施。
昭和47年3月4日	鉄器、木器減圧含浸装置を研究室に設備。
昭和47年12月20日	城内公園の一部（西側駐車場、東側噴水）が佐賀土木事務所から博物館に管理委任される。
昭和48年10月10日	茶室「清恵庵」を市村清氏のご遺志により市村幸恵夫人から寄贈を受ける。茶室落成式。

2. 博物館日誌 (昭和48年度)

48年

- 4月1日 職員異動発令
- 4月11日 国立科学博物館人類研究室長鈴木尚氏、同普及課椎名仙卓氏来館
- 4月18日 小笠原フサ氏から小笠原長生氏の書画25点寄贈を受ける
- 5月10日 「野鳥展」開場（大展示室・6月5日まで）
- 5月17日 NHK総合テレビ「話題の窓」で「佐賀の野鳥」放映
- 5月22日 関行丸古墳出土物一括県重要文化財の指定を受ける
- 5月26日 駒沢大学助教授倉田芳郎氏、同大博物館学講座受講学生の実習を当館に依頼のため来館
- 5月30日 ブラジル在住原美代子氏からブラジルの岩石標本の寄贈を受ける
- 6月4日 鹿児島県知事金丸正幸氏、他2名当館の施設調査のため来館
- 6月11日 日本学術振興会会長茅誠司氏、青少年育成国民会議専務理事坂井隆治氏来館
- 6月13日 佐賀新聞社文化部長原口昭夫氏、新入社員6名を引卒し、新入社員研修のため来館
- 6月15日 「佐賀美術協会60周年記念展」開場（大・中展示室・佐賀玉屋、6月24日まで）
- 6月16日 職員異動発令
博物館協議会開催（応接室）
- 6月22日 NHK総合テレビ「話題の窓」で「装飾古墳壁画」放映
- 6月23日 鍋島直泰氏から蒸気機関車雛形、蒸気船雛形（スクルー形、外輪形）の寄託を受ける
- 6月27日 中央通り日祐前にポスター掲示板設置
- 7月5日 伊万里市野口鉄男氏から民家模型の寄贈を受ける
- 7月14日 「郷土の先覚者書画展」開場（大展示室、8月10日まで）
- 7月18日 NHK総合テレビ「話題の窓」で「郷土の先覚者書画」放映
- 7月20日 池田知事、体育協会国体委員長保坂周助氏を案内して来館
- 7月23日 共立女子大学、学生井手美津子氏本館で博物館学実習（7月30日まで）
- 7月26日 熊本県教育委員長蒲池正夫氏来館
- 7月28日 第11回博物館研究講座
演題 「近世美術史上における中央と地方について」
講師 九州芸術工科大学教授 岸田 勉氏
- 8月25日 「日展」開場（全館、9月24日まで）
池田知事、西日本新聞社長福田利光氏、日本芸術院会員日展常務理事古賀忠雄氏、同井手宣通氏、山田申吾氏、蓮田脩吾郎氏、金子鷗亭氏ほか多数来館
- 9月1日 岡山県副知事荒木栄悦氏来館
- 9月9日 長崎県立美術博物館長松尾哲男氏来館
- 9月16日 職員異動発令

- 9月29日 「九州沖縄工芸秀作展」開場（3号展示室、10月5日まで）
「理科作品展佐賀支部展」開場（大展示室、10月1日まで）
- 9月29日 博物館協議会開催（応接室）
- 10月3日 「理科作品展佐賀県展」開場（大・中展示室、10月6日まで）
- 10月9日 「移動博物館」開催（川副町中央公民館、10月11日まで）
- 10月10日 茶室「清恵庵」寄贈落成式市村幸恵氏、館林三喜男氏、池田知事ほか多数出席
- 10月12日 日下八光氏夫妻「装飾古墳壁画展」展示指導のため来館
NHK総合テレビ「スタジオ 102」で「装飾古墳壁画展」放映
- 10月13日 「装飾古墳壁画展」開場（全館、11月4日まで）
NHK総合テレビ「話題の窓」で「装飾古墳壁画」放映
第12回博物館研究講座 演題「装飾古墳壁画のしくみ」 講師 東京芸術大学名誉教授 日下八光氏
- 10月20日 「移動博物館」開催（神埼町役場、10月22日まで）
- 10月22日 池田知事、中小企業庁長官外山 弘氏、福岡道産局長福田敏南氏来館
- 10月23日 印度カルカッタ大学教授ビレッシューバナジー氏ほか5名来館
- 10月27日 「移動博物館」開催（鎮西町役場、10月29日まで）
- 11月3日 「移動博物館」開催（白石町中央公民館、11月5日まで）
明治大学教授杉原荘介氏、福岡市歴史資料館長三島格氏来館
- 11月7日 池田知事、河野義克元国会図書館長夫妻来館
- 11月17日 第23回「佐賀県美術展」開場（全館、11月25日まで）
- 11月24日 博物館協議会開催（応接室）
久保田町村田満子氏から龍造寺隆信着用と伝えられる鎧及び肖像画等の寄託を受ける
- 11月27日 出納室事務指導監査
- 11月28日 「佐賀県高等学校美術展」開場（大展示室、12月2日まで）
- 11月29日 鍋島直紹氏来館
- 12月1日 「日本近代文学展」開場（1・2・3号・中展示室、12月23日まで）
- 12月4日 鍋島直泰氏来館
- 12月8日 「日本近代文学展」特別講演会
講師 作家 劉寒吉氏
演題 「森鷗外と九州」
講師 梅光女学院大学長 佐藤泰正氏
演題 「漱石と現代」
- 12月9日 「マルケ展」開場（大展示室、12月19日まで）
- 12月12日 NHK総合テレビ「話題の窓」で「日本近代文学展」放映
- 12月14日 富士町深川適二氏から宮地嘉六の色紙2枚寄贈を受ける
- 12月15日 東京都近代文学博物館長石田祐彦氏、同館企画委員伊川公司氏来館

- 12月16日 長崎大学附属図書館長鍋島直共氏ほか20名来館
- 12月18日 富士町深川適二氏から山岡鉄舟の書 9 枚寄贈を受ける
- 12月19日 作曲家團伊玖磨氏ほか来館
- 12月28日 館内消防訓練
執務納め式
- 49年
- 1月4日 執務始め式
- 1月10日 常設「佐賀県の歴史と文化展」開場（1・2・3号展示室、3月31日まで）
- 1月15日 常設展「成人の日」のため無料公開
- 1月19日 「郷土の新遺跡資料展」開場（大展示室、2月8日まで）
- 1月24日 定期監査（事務）
- 1月26日 第14回研究講座
演題 「弥生時代から古墳時代へ」 ―その文化と政治的背景―
講師 県教育庁文化財調査監 木下之治氏
- 2月1日 2月中NHK佐賀放送局の天気予報背景に当館所蔵の古伊万里、柿右衛門、色鍋島の磁器4点を放映
- 2月3日 県北九州事務所長緒方堯氏ほか45名来館
- 2月16日 「石本秀雄展」開場（大展示室、2月24日まで）
- 2月28日 駒沢大学教授中島俊教氏、同大博物館学講座受講学生の博物館学実習のため学生13名を引卒し来館（3月5日まで）
- 3月2日 博物館協議会開催（茶室清恵庵）
- 3月5日 「鍋島藩窯展」開場（大展示室、3月24日まで）
- 3月6日 NHK総合テレビ「話題の窓」で「鍋島藩窯展」放映
- 3月7日 西有田町坂の下遺跡第2次発掘調査（3月13日まで）
- 3月8日 蓮池町陣内利夫氏から成富椿屋筆「松に鶴図」1幅寄贈を受ける
- 3月9日 第15回研究講座
演題 「色鍋島の様式美とその技法」
講師 県文化財専門委員 永竹 威氏
- 3月11日 イスラエル大使来館
- 3月14日 NHK総合テレビ「話題の窓」で「坂の下遺跡発掘調査」放映
- 3月20日 佐賀市松原鍋島奉教会前および総合運動場前にポスター掲示板設置
- 3月22日 鍋島直紹氏、「鍋島藩窯展」観覧のため来館
- 3月23日 鍋島直泰氏、「鍋島藩窯展」観覧のため来館（3月25日まで）
- 3月30日 定期監査（委員監査）

3. 規模および施設

規 模

(1)本館構造	鉄筋コンクリート造	3階建
規 模	敷地面積	30,962.0m ² (公園を含む)
	建築面積	2,149.1m ²
	延床面積	4,638.0m ²
(2)茶室構造	木造平屋建	
(清恵庵) 規 模	建築面積	57.35m ²

施設概要

ロビー

(案内所、常設展受付) 349.5m²

1号展示室 193.6m²

2号展示室 352.0m²

3号展示室 484.0m²

大展示室 523.5m²

中展示室 136.0m²

研究室(ガス、水道つき) 66.0m²

事務室 80.0m²

資料調査室 64.0m²

撮影暗室 24.0m²

車庫 56.0m²

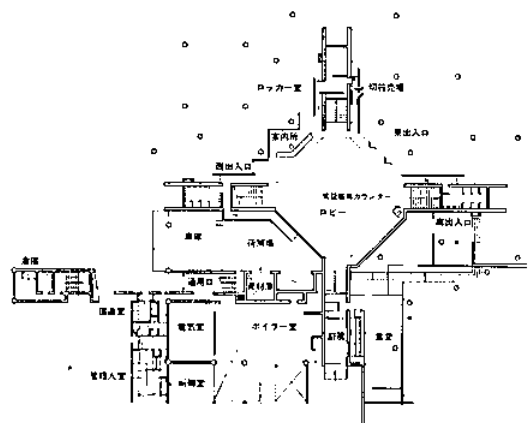
荷解場 86.0m²

電気室 48.0m²

ボイラー室 157.0m²

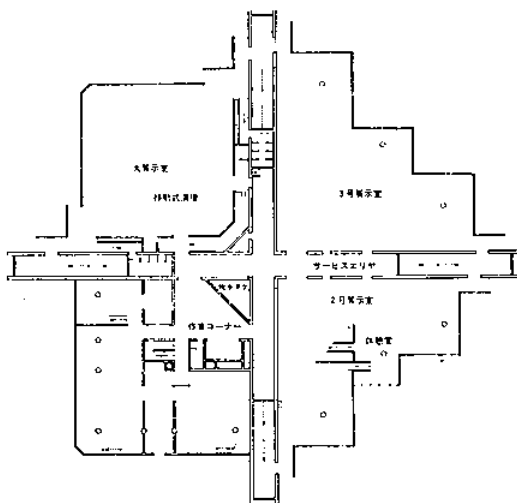
食堂 60.0m²

1階平面図

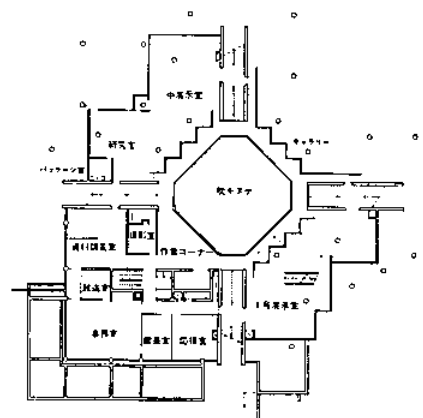


平 面 図

3階平面図



2階平面図



4. 組

織

博物館協議会

館 長

副館長

総務課

庶務係

(庶務、施設管理
予算、会計等)

学芸課

資料係

(資料収集、保管、展示
調査研究等)

普及係

(資料刊行、広報
茶室の管理運営等)

職員名簿

(49・3・31現在)

館 長	古 賀 秀 男
副 館 長	藤 光 辰 次
総 務 課 長	納 富 武 一
庶 務 係 長	酒 見 四 郎
主 事	中 村 や を
"	小 林 静 枝
"	小 柳 武 久
技 師	吉 岡 喬 二
事務員 (守衛)	坂 井 卓 次
" (")	小 石 武 彦
" (用務員・運 転技術員)	竹 下 仁 三
技 師 (兼務)	江 口 実
学 芸 課 長	手 塚 静 雄
資 料 係 長	尾 塚 善 郎
学 芸 員 補	志 佐 惲 彦
学 芸 員	森 醇 一 朗
"	三 輪 英 夫
非常勤嘱託	永 久 保 儀 市
"	浜 野 四 郎
普及係長 (兼務)	手 塚 静 雄
主 事	池 田 栄 意 子
"	音 成 昭 道

※人 事 異 動

昭和48年4月1日付

○転 入

学芸課資料係学芸員補 志佐惲彦 (岐木小学校教諭より)

○館内異動 (昇任)

総務課庶務係主事 小柳武久 (総務課庶務係主事補より)

総務課庶務係技師 吉岡喬二 (総務課庶務係技師補より)

兼ねて総務課庶務係運転技術員 竹下仁三 (総務課庶務係事務員)

昭和48年6月16日付

○転 入

総務課庶務係長 酒見四郎 (土地改良第一課庶務係長より)

○転 出

社会教育課庶務係長 西村正剛 (総務課庶務係長より)

○兼務解消

文化課文化財係事務職員 木下 巧博物館の兼務を解く

学芸課資料係学芸員 森醇一朗文化課の兼務を解く

佐賀県体育館技師 小森 清博物館の兼務を解く

昭和48年9月16日付

○転 入

学芸課普及係主事 池田栄意子 (県立図書館資料課調査係司書より)

5. 博物館協議会

委員名簿

(49・3・31現在)

種別	氏 名	現 職 名	住 所
学校教育、 社会教育関係	高 添 門 司	佐賀県公民館連合会会長	伊万里市大川町大川野1098
	掛 林 貞 夫	多久市教育長	多久市北多久町大字多久原4537
	洲 上 友 規	佐賀県立盲学校長	佐賀市天祐1丁目8-5
	梶 原 睦 天	嬉野町立吉田小学校長	藤津郡嬉野町吉田納戸料
学 識 経 験 者	星 野 英 夫	祐徳博物館長	鹿島市城内
	内 山 良 男	佐賀県社会福祉研究會会長	佐賀市本庄町5本杉
	村 山 宅 美	佐賀女子短期大学教授 佐賀県理科教育振興會会長	佐賀市北川副町本原4本柳
	三 好 不二雄	佐賀大学講師(非常勤) 佐賀県立図書館(瑞穂館)蔵	佐賀市赤松町11-11
	石 本 秀 雄	佐賀大学教育学部教授 佐賀県造形教育研究會会長	佐賀市中の小路9-29
	難 波 栄	佐賀新聞社 論説委員	佐賀市唐人1丁目県営住宅235
	牛 島 国 枝	佐賀県議会議員	佐賀市城内2丁目12番12号
	岸 田 勉	九州芸術工科大学教授	久留米市津福本町 931の4
	岡 崎 敬	九州大学文学部教授	福岡市東区香椎御幸町公務員宿舎9-19
	米 倉 利 昭	佐賀大学教育学部教授	佐賀市本庄町本庄字5本杉528-1 (佐賀市本庄西地区公務員宿舎)
	平 田 寛	九州大学文学部助教授	福岡市南区長住3丁目62-504 公団住宅

協議会開催状況

- | | | |
|-----|------|---|
| 第1回 | 開催月日 | 昭和48年6月16日 |
| | 議 題 | 1. 新委員の紹介
2. 昭和47年度事業の報告
3. 昭和48年度事業の実施について
(1) 資料の調査と収集について
(2) 展示事業について
(3) 普及事業について
4. その他 |
| 第2回 | 開催月日 | 昭和48年9月29日 |
| | 議 題 | 1. 茶室の管理運営について
2. 9月補正予算案について
3. その他 |
| 第3回 | 開催月日 | 昭和48年11月24日 |
| | 議 題 | 1. 昭和49年度の事業計画について
2. その他 |
| 第4回 | 開催月日 | 昭和49年3月2日 |
| | 議 題 | 1. 昭和49年度当初予算案について
2. その他 |

6. 昭和48年度歳出予算

昭和48年度歳出予算一覧

科 目	予算額 (単位円)
1. 博物館運営費	26,398,000
管理運営費	25,850,000
会議及び研修費	288,000
博物館協議会費	260,000
2. 資料整備費	23,367,000
資料購入費	18,447,000
資料整理費	4,920,000
3. 調査研究費	1,268,000
研究費	400,000
調査報告書刊行費	440,000
坂の下縄文遺跡発掘調査費	300,000
資料調査費	128,000
4. 特別企画展開催費	5,639,000
鍋島藩窯展	880,000
野鳥展	114,000
郷土の先覚者書画展	575,000
装飾古墳壁画展	2,140,000
日本近代文学展	1,700,000
新遺跡資料展	200,000
理科作品展	30,000
5. 常設展示費	1,020,000
6. 普及事業費	686,000
研究講座費	46,000
巡回展示費	192,000
資料刊行費	448,000
7. 茶室管理運営費	2,725,000
茶室管理費	1,704,000
茶室落成披露	1,021,000
計	61,103,000

事業の概況

1. 常設展

佐賀県の歴史と文化展

主催	佐賀県立博物館
会期	昭和48年4月1日～昭和48年8月10日（前期） 昭和49年1月10日～昭和49年3月31日（後期）
会場	1・2・3号展示室
観覧料	個人 大人50円 大・高生30円 中・小生20円 団体（団体は20名以上） 大人30円 大・高生20円 中・小生10円

展示概況

自然史 （1号展示室）

県内に分布する岩石、化石として、球状閃緑石やヨコヤマオウムガイなど25点。混虫標本では、甲虫、トンボ、チョウ類及びカブトガニの成長過程による標本等を展示。またエヒメアヤメの開花生態模型を展示した。

考古 （2号展示室）

縄文式土器時代から焼物の歴史を体系的におって展示。始源期の櫛目文や押型文のある土器片から弥生、古墳時代の日用雑器類、奈良時代の古寺瓦等がある。それに焼物の発展過程を示すために江戸時代の古窯跡出土の陶磁器片など合せて約400点を時代別、出土地別に系統を追った。

歴史 （3号展示室）

法隆寺金堂の壁画模写をはじめ、南北朝期にいたるまでの仏画、写経本等20点、竜造寺隆信、政家が着用したと伝えられる鎧、佐賀藩精煉方製造の日本最初の蒸気車、蒸気船雛形、及び江戸時代の先覚者6名の書画などを展示した。

美術工芸 （3号展示室）

武雄古唐津系の櫛目文鉄緑釉大深鉢をはじめ初期伊万里系の染付菊花文青磁碗など25点で、刷毛目蔦文徳利をはじめ大部分が初公開の資料である。また絵画は明治初期の百武兼行をはじめ現代作家の納富進氏にいたるまでの16名、26点の作品を展示。三根霞郷の農家八棟など約半数は初公開の資料を展示した。

出 品 目 録

自然史資料

(1号展示室)

- 佐賀県地質図 (パネル)
- 佐賀県の地質 (パネル)
屋久杉 142cm×135cm 約 1,100年
- 佐賀の岩石
花こう岩、佐賀郡大和町下田産
蛇紋岩、東松浦郡巖木町産
石英 (けい石)、佐賀郡富士町杉山産
玄武岩、多久市東多久町波木産
安山岩、多久市多久町東ノ原産
球状閃緑岩、多久市北多久町相浦産
解説 (パネル)、産地風景 (写真パネル)
流紋岩 (松脂岩)、西松浦郡有田町産
流紋岩 (陶石)、西松浦郡有田町産
結晶質石灰岩 (大理石)、東松浦郡巖木町産
砂岩、東松浦郡巖木町浪瀬産
火成岩の分類表 (パネル)
たい積岩の分類表 (パネル)
- 化石
ナギの仲間、山口県大嶺町産
シダの仲間 "
- 佐賀の化石
石炭、新明治鉱業、佐賀鉱業所産
ヨコヤマオウムガイ、伊万里市南波多町産
ブンブクチャガマの仲間、伊万里市立川鉱採集
フナクイムシ "
ウニ "
キリガイダマシ "
カキ (二枚貝) "
二枚貝—6種— "
テリナ (二枚貝) "
シリキュウラ "
二枚貝の大塊 (シジミの仲間) 佐世保層郡産、
伊万里市楠久、麻生鉱、坑内
ブナの葉、伊万里市、立川鉱採集
ヤナギの葉、 "

- メタセコイヤ、 "
- シキシマバス、杵島郡北方鉱、坑内産
- 県内巡検コース (パネル)
- 新生代古第三紀後期の古地理図 (パネル)
- タイラノザウルス生態模型 (実物の2分の1、
国立科学博物館譲与)
解説パネル2枚
- カブトガニ
卵写真3枚 (カラー)
ふ化直後1枚 (カラー)
2年幼生
3年幼生
5年幼生
10年幼生
15年位の成体 (オス)
30年位の成体 (オス2、メス2)
- エヒメアヤメ
生態写真 (カラー)
標本、神埼郡東背振村産
全国自生分布図
実物開花生態模型
- 佐賀県植生図
- 佐賀の昆虫
甲虫類、6箱、222点
トンボ類、5箱、127点
チョウ類、5箱、120点
- カササギの生態写真パネル
- 有明海の風物—写真
干がた風景 (カラー) 2枚
ムツゴロウの生態
カラー2枚
モノクロ1枚
- 地質時代表 (大型パネル)
- 佐賀県地質層序表
- 佐賀県模型 (2万5千分の1)
- 佐賀市街地図 (2千5百分の1)
- 唐津市街地図 (")

○有明海の干がたと生物模型

考古資料

(2号展示室)

〔先土器時代〕

- 黒曜石原石 (伊万里市腰岳採集)
- 安山岩原石 (大町町鬼の鼻山採集)
- 三年山・茶園原遺跡 (多久市) 出土の尖頭器
- 馬渡島切立遺跡 (鎮西町) 出土のナイフ形石器・台形石器

- 伊古石遺跡 (西有田町) 出土のナイフ形石器
焼物の変遷

〔縄文時代〕

- 盗人岩洞穴遺跡 (西有田町) 出土の櫛目文土器—早期
- 盗人岩洞穴遺跡 (西有田町)・伊古石遺跡 (西有田町)・伊勢山遺跡 (基山町) 出土の各種押型文土器—早期
- 大門遺跡 (佐賀市) 出土の曽畑系土器—前期
- 坂の下遺跡 (西有田町) 出土の各種縄文式土器・紡錘車形土製品・土錘・顔面把手・朱塗り土器—中期
- 青森県石神遺跡出土の中期縄文式土器 (参考品)
- 青森県石神遺跡出土の後期・晩期縄文式土器 (参考品)
- 大門遺跡出土の縄文時代終末期の完形土器—晩期
- 盗人岩洞穴遺跡出土の石槍・石斧・すり石
- 伊古石遺跡出土の尖頭状石器
- 坂の下遺跡出土の石鏃・石斧・石匙

〔弥生時代〕

- 戦場ヶ谷遺跡 (神埼町) 出土の壺—前期
- 大友遺跡 (呼子町) 出土の彩文土器—前期
- 大友遺跡出土の貝殻文土器—中期
- 土生遺跡 (三日月町)・晴田遺跡 (小城町)
・大友遺跡出土の壺—中期
- 大友遺跡・切通遺跡 (上峰村)・天満宮東方遺跡 (鳥栖市) 出土の甕棺・壺棺—中期
- 大友遺跡出土の貝釧

- 桃島山遺跡出土の内行花文鏡・素環頭刀子・勾玉・管玉

- 横田遺跡 (東背振村) 出土の方格規矩鏡・素環頭太刀

〔古墳時代〕

- 成章中学校地出土品 (佐賀市)

土師 壺 2

- 久蘇遺跡出土品 (小城町)

土師 壺 5

“ 埴 2

“ 碗 6

“ 高坏 3

- 伊勢山遺跡出土品 (基山町)

土師 甕 3

“ 甕 1

壺 5

“ 埴 1

“ 碗 6

“ 高坏 5

祭祀用土器 7

滑石製平玉 一括

写真パネル 1

- 金立開拓遺跡出土品 (佐賀市)

須恵 甕 1

- 銚子塚出土品 (佐賀市)

埴輪 1

- 岡寺古墳出土品 (鳥栖市)

円筒埴輪 3

- 男女山古墳郡出土品 (大和町)

須恵 壺 2

“ 高坏 3

“ 提瓶 1

“ 坏 9

土師 碗 2

- 東十郎古墳郡出土品 (鳥栖市)

土師 台付碗 2

須恵 蓋付坏 3

“ 高坏 1

“ 平瓶 1

〃	提瓶	1
〃	磁	2
〃	台付壺	2
〃	長頸壺	2
〃	有耳壺	2
〃	甕	1
〔古代の瓦と蔵骨器〕		
○国分寺出土品	(大和町)	
字瓦	1	
○国分寺瓦窯出土品	(大和町)	
宇瓦	2	
男瓦	4	
女瓦	3	
鍍瓦	1	
のし瓦	4	
○寺浦廃寺出土品	(小城町)	
女瓦	1	
○国分尼寺出土品	(大和町)	
女瓦	5	
男瓦	2	
のし瓦	2	
宇瓦	7	
鍍瓦	3	
○大願寺出土品	(大和町)	
宇瓦	1	
鍍瓦	1	
○基肄城出土品	(基山町)	
男瓦	1	
のし瓦	1	
基肄城遠景写真パネル	1	
○山崎経塚出土品	(多久市)	
陶製外筒	1	
銅製経筒	1	
○山崎山遠景写真パネル	1	
○蔵骨器	4 (小城町)	
○名護屋城出土品	(鎮西町)	
鬼瓦	1	
鍍瓦	1	
解説パネル	3	

遺物出土状況写真パネル 6

〔江戸時代古窯跡関係資料〕

- 武雄古唐津北部系、小峠古窯跡出土品
(武雄市武内町)
- 〃 大谷古窯跡出土品
(武雄市武内町)
- 〃 黒牟田古窯跡出土品
(武雄市武内町)
- 〃 焼峯古窯跡出土品
(武雄市朝日町)
- 武雄古唐津南部系、小山路古窯跡出土品
(武雄市内田皿山)
- 〃 大草野古窯跡出土品
(藤津郡塩田町)
- 松浦古唐津系、藤川内古窯跡出土品
(伊万里市松浦町)
- 〃 椎ノ峯古窯跡出土品
(伊万里市南波多町)
- 西肥前有田磁器系、掛の谷古窯跡出土品
(西松浦郡有田町)
- 〃 弥源次古窯跡出土品
(西松浦郡有田町)
- 鍋島藩窯出土品 (伊万里市大川内町)

歴史資料 (3号展示室)

〔仏教関係資料〕

- (仏教関係)
- 法隆寺金堂壁画、阿弥陀三尊像 (大塚榛山模写)
- 八字文珠菩薩騎獅図像 (県重要文化財)
- 不動明王三尊図像
(写経関係)
- セセリ谷出土経塚写経 天永3年(1112)
- 正法寺蔵 大般若経写経 藤原朝
- 紺地金泥妙法蓮華経写経 至元6年(1346)
- 也足庵蔵 大般若経写経 永徳元年(1381)
- 〔近世資料〕
- 竜造寺隆信肖像図
- 烈紋二枚胴具足 (伝竜造寺隆信着用)

- 桶側二枚胴具足（伝竜造寺政家所用・秀吉拝領品）
- 菊桐紋蒔絵什器（角皿、水桶、柄杓、水指）
- 朱印状（鍋島直茂宛秀吉書状）
- 名護屋城跡（現状写真）
- 肥前名護屋城図屏風（部分写真）
- 肥前名護屋城古図
- 【幕末維新資料】
- 佐賀藩精煉方図
- 精煉方製造蒸気車雛形（安政2年）
- 同 蒸気船雛形（安政2年・外輪式・スクリュー式）
- 長崎海軍伝習所図（写真）
- 佐賀藩砲兵隊・彰義隊を攻撃する図（写真）
- 島神七着用の官軍軍服（戊辰戦争資料）
- 朝倉弾蔵の遺書（ ” ）
- 朝倉弾蔵の感状（ ” ）
- 戊辰戦争時の小旗・軍符（ ” ）
- 【先覚者書画】
- 洪浩然筆 七言二行書屏風 6曲1隻
- 鍋島綱茂筆 三十六歌仙図 1帖
- 鍋島治茂筆 齊聖・廣淵 2軸
- 古賀精里筆 育徳・処善 2軸
- 草場佩川筆 花卉図屏風 6曲1隻
- 古川松根筆 花卉図屏風 6曲1隻
- 美術・工芸資料（3号展示室）
- 【絵画資料】
- 「イタリア風景」 百武兼行作 油彩
- 「タンバリンを持つ少女」 ” ”
- 「マンドリンを持つ少女」 ” ”
- 「老婦人像」 ” ”
- 「肖像（久米桂一郎）」 小代為重作 ”
- 「テームス河畔」 ” ”
- 「フランス風景」 久米桂一郎作 ”
- 「ゼーグル橋畔」 ” ”
- 「りんご拾い」 ” ”
- 「姉の像」 ” パステル
- 「花野」 岡田三郎助作 油彩

- 「バラ」 ” ”
- 「風景」 高木背水作 ”
- 「嵯峨野の雑木林」 三根霞郷作 ”
- 「農家八棟」 ” 水墨
- 「山陰の漁村」 ” ”
- 「落花」 腹巻丹丘作水墨淡彩
- 「パリーの踊子」 北島浅一作 油彩
- 「麦と黒」 山口亮一作 ”
- 「虹」 武藤辰平作 ”
- 「春雪」 松本弘二作 ”
- 「黒い牛」 高柳種行作 ”
- 「臼杵の仏」 田原 輝作 ”
- 「対話」 石本秀雄作 ”
- 「竜王峠」 納富 進作 ”
- 「K嬢」 村岡平蔵作 ”
- 【陶磁器資料】
- 叩手大壺
松浦古唐津系、17世紀（初）推考
- 櫛目文鉄緑釉大深鉢
武雄古唐津北部系、国指定史跡、大谷窯、17世紀（初）江戸中期
- 雲鶴象嵌文鉢
武雄古唐津南部系、庭木窯、18世紀（中）江戸中期
- 刷毛目松絵水甕
武雄古唐津南部系、弓野窯、18世紀江戸中期
- 刷毛目松絵鶴首徳利
武雄古唐津南部系、弓野窯、18世紀（中）江戸中期
- 刷毛目藁文徳利
武雄古唐津南部系、弓野窯、18世紀（中）江戸中期
- 刷毛目指描文流釉掛徳利
武雄古唐津南部系、弓野窯、18世紀（中）江戸中期
- 刷毛目指描緑釉瓶
武雄古唐津南部系、庭木窯、18世紀（中）江戸中期

- 刷毛目指描文佛花瓶
武雄古唐津北部系、焼峯窯、18世紀（中）
江戸中期
- 流釉兩耳付佛花瓶
武雄古唐津北部系、川古谷窯、18世紀（中）
江戸中期
- 手付灯油瓶
武雄古唐津北部系、黒牟田向家窯
19世紀（前）江戸後期
- 「湯町」字銘入徳利
武雄古唐津南部系、弓野窯、19世紀（中）
江戸後期
- 叩手鉄釉流掛壺
松浦古唐津系、藤川内窯、17世紀（後）江
戸中期
- 象嵌唐花文平鉢
武雄古唐津南部系、弓野窯、18世紀（初）
江戸中期
- 絵唐津柳図深向付
武雄古唐津南部系、小山路窯、17世紀（初）
桃山末期～江戸初期
- 叩手鉄釉壺
岸嶽古唐津系、飯洞郷窯、16世紀（中）
桃山初期
- 初期伊万里、染付鏤釉兔図台皿
西肥前、旧武雄邑内百間窯出土、17世紀（
初）江戸中期、山下朔郎氏寄贈
- 初期伊万里、染付花蝶文平皿
西肥前有田磁器系、稗古場窯、17世紀江戸
初期
- 初期伊万里 染付菊花文青磁釉碗
西肥前旧武雄邑内、百間窯出土、17世紀（
初）江戸中期
- 初期伊万里 染付松梅文筒形碗
西肥前旧武雄邑内、百間窯出土、17世紀
（初）江戸初期
- 初期伊万里 染付日輪山水図平皿
西肥前有田磁器系、内山、17世紀（初）
江戸中期、寛永前後

- 初期伊万里 染付葡萄蝶文平皿
西肥前有田磁器系、稗古場窯、17世紀
（初）江戸初期
- 初期伊万里 染付地文山水図平皿
西肥前有田磁器系、内山、17世紀（初）
江戸初期、寛永前後
- 初期伊万里 染付唐草文瓶
西肥前有田磁器系、天狗谷窯出土、17世紀
（初）江戸初期、藤本暉夫氏寄贈
- 釉裏紅牡丹文碗
西肥前有田磁器系、猿川谷窯出土、17世紀
（初）江戸初期

2. 企 画 展

(1) 野 鳥 展

主 催 佐賀県立博物館

会 期 昭和48年5月10日～6月5日

会 場 大展示室

観覧料 常設展と併設のため観覧料は別途徴収しなかった。

展 示 概 況

全国的な愛鳥週間の5月10日から開会したので、各報道機関もよくとりあげて、効果的な普及となつて初日には城東中学校と赤松小学校が合計 900人余り入場した。

展示物は剝製98点、このうちには三瀬村の山本幸彦さんのアオサギ、セグロカモメ、三田川町牧瀬さんのハシブトガラス、カササギ、大和町斎藤哲次さんのオナガガモ、カササギ、湖畔荘所有のコブハクチョウなどを新たに加えて展示した。

生態写真は昨年展示したものに加えるため、名古屋市吉村信紀氏、熊本県大田真也氏、東京都天野明氏の協力が得られたので、効果的な展示にすることができた。総数80枚を資料としても備蓄することができた。

その他、川浪養治氏の野鳥生態日本画、6点、カササギの巣2個を加えて9個の古巣を展示し紹介した。

主な目標が、野鳥保護、自然保護であったので17枚のパネルで、保護の必要性と、巣箱のつくり方、庭に小鳥を、鳥と食物などの項目で解説した。また場内には松林を仮設し、野鳥の声の録音を放送して、展示効果の補助として活用したのでムードづくりに役立った。

出 品 目 録

ハク製 (98)	フクロウ科
カラス科	キュウシュウフクロウ (3)
ハシブトガラス	オオコノバズク
ハシボソガラス	トラフズク
コクマルガラス	ワシタカ科
カササギ (4)	タカ
カササギ (韓国産) (2)	ハイタカ
カケス	ツミ
ホシガラス	アビ科
キジ科	オオハム
ニホンキジ (オス、2)	ウ科
ニホンキジ (メス、3)	ウミウ
コウライキジ	カイツブリ科
ヤマドリ (2)	カンムリカイツブリ
ウズラ	ガンカモ科
コジュケイ	ツグミガモ

トモエガモ
 ホオジロガモ
 オシドリ(オス)
 オシドリ(メス)
 オナガガモ (オス、2)
 オナガガモ (メス)
 ヒドリガモ(オス)
 ヨシガモ(メス)
 コブハクチョウ
 コガモ(オス)
 コガモ(メス)
 ヒシクイ

サギ科

コサギ
 アオサギ



クロサギ
 ミゾゴイ
 カワセミ科
 カワセミ
 アカショウビン
 ヤマセミ (2)
 キツツキ科
 ナミエオオアカゲラ
 アオゲラ
 アリスイ
 キレンジャク科
 キレンジャク

ツグミ科

トラツグミ
 八丈ツグミ
 シロツグミ

アトリ科

イカル
 ウソ

ヒタキ科

ルリビタキ
 ジョウビタキ
 オオルリ

キバシリ科

キバシリ

ツグミ科

ノゴマ

モズ科

モズ

アトリ科

カシラダカ

スズメ科

ホオジロ

チドリ科

タゲリ(オス)
 タゲリ(メス)

クイナ科

ツルクイナ
 バン

シギ科

クサシギ (2)
 タマシギ (2)
 ヤマシギ
 チュウシャクシギ
 ダイシャクシギ

ミズナキドリ科

ミズナキドリ

カモメ科

カモメ
 セグロカモメ

ヨタカ科

ヨタカ
 ヒヨドリ科
 ヒヨドリ
 ツグミ科
 ツグミ
 ハト科
 アオバト
 キジバト
 カワガラス科
 カワガラス
 ガンカモ科
 ヨシガモ(オス)
 ヒドリガモメ(オス)
 ビロウドキンクロ
 カルガモ
 マガモ
 写真 (84)
 イヌウメモドキの赤い実をくわえたヒヨドリ (カラー)
 カササギの飛ぶ姿
 ニホンキジ (オス)
 ニジの抱卵
 キュウシュウフクロウ
 ツクシガモの群れ
 シラサギ (海岸堤防の上)
 有明海のツクシガモ群れ
 コゲラ (キツツキ科)
 冬のタゲリ
 人に馴れたカササギ (6)
 野鳥の生態 (22)
 有明海のツクシガモの大群れ
 ツクシガモの群れ
 飛んでいくツクシガモ
 オシドリ
 マナヅル
 マナヅルの一家
 西掘端のカルガモ
 スズガモの群れ
 氷結した北山ダム貯水池に遊ぶカモ

チドリ
 タカブシギ
 モアシシギ
 バン
 タシギ
 ヤマセミ
 クロサギ
 チュウサギ
 飛んでいくアオサギの群れ
 ダイサギ
 シラサギの群れ (嘉瀬川の河口)
 コミミズク
 サシバのヒナ
 メジロ
 アオバズク
 カッコウのヒナへエサをやるセッカ
 タマツゲの実を食うヒヨドリ
 アトリの大群
 ウソ
 アカモズ
 水田のタゲリ
 キセキレイ
 水田のホオアカ
 ミゾゴイのヒナ
 ミゾゴイ
 ホオジロ
 ヒヨドリ (2)
 ホオジロのヒナ
 とり残した柿の実にきたツグミ
 ムクドリ
 マキの木に巣づくりしたカササギのペア
 有明海に遊ぶチドリの群れ
 カササギ (カラー)
 コゲラの巣
 ヤマセミ
 北山ダムで生きていた頃のコブハクチョウ
 セツカの巣
 パネル (17)
 野鳥展にあたって

生物の系統樹（鳥の進化）

鳥の先祖、始祖鳥

鳥の各部分の名称

鳥のくちばしのいろいろ

シジュウカラ等のたべる虫の量

庭に小鳥を

害虫をよく捕食するガラ類の生態

野鳥の巣箱の架設と営巣度

巣箱のいろいろ

野鳥獣の保護増殖

鳥と植物

野鳥を観察しよう

カササギ一巣中六卵の測定値

斃死カササギ12体の測定

世界におけるカササギ分布図

年度別狩猟鳥獣の捕獲数調

絵（6）

ニホンキジ

カワウ

カワセミ

ルリビタキ

オオルリ

マナヅル（川浪養治筆）

巣（9）

セツカの巣

コカワラヒワの巣

ハシブトガラスの巣

ウグイスの巣

ホオジロの巣と卵

オオヨシキリの巣と卵

カササギの巣

コゲラの巣

未完成のカササギの巣

屏風（武雄市教育委員会所有）

野鳥図屏風（2）

グラフ

北山ダムの水鳥調査（佐賀野鳥の会）

(2) 佐賀美術協会創立60年記念展

主 催 佐賀美術協会創立60年記念展実行委員会、佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館、佐賀美術協会

後 援 佐賀文化会議

会 期 昭和48年6月15日～24日

会 場 大展示室

観覧料 無料

展 示 概 況

大正2年10月に、久米桂一郎、岡田三郎助を中心に、在京、在郷の美術家達によって設立された佐賀美術協会は、今年60周年を迎えた。その間、同協会は幾多の逸材を育てるとともに、郷土の美術振興に大きな役割を果たしてきた。

今回、佐賀美術協会60周年を記念して、その歴史を回顧し、更に今後の発展を期して、例年の会員並びに公募展に物故会員の作品を加えて記念展を企画したものである。

出品点数は、会員並びに一般公募の入選作合わせて228点であった。また、物故作家については、6月15日から19日まで、佐賀玉屋会場に展覧され、いづれも多大の反響があった。

主 な 出 品 物 (会 員 の 部)

◎日 本 画											
漁 村 夕 映	岩 永 京 吉	阿 早 春 の と き わ	蘇 木 副 島 行 高	杉 原 武 夫							
藤 峡	川 浪 養 治	鳳 風 船 子 供	高 柳 博								
雨	金 子 剛	魚 槽	多久島 敏 明								
昆 沙 門 天 像	納 富 未 由	顔	多久島 純 子								
高	下 川 千 秋	あ じ さ い	竹 下 泰 彦								
水	郷 諸 田 和 彦	北 海 道 阿 寒 湖 の 秋	田 中 太 郎								
◎洋 画											
港 の 丘	石 本 秀 雄	桜	島 筒 井 茂 雄								
の り ひ び	岩 永 光 正	む つ ご ろ う	富 崎 長 太 郎								
住 の 江 港 の 作 業 船	江 口 孝 徳	異	中 原 儀 四 郎								
佐 世 保 港	大 久 保 孝 夫	求 め る	野 口 忠 行								
春 の 野 母 岬 (長 崎)	緒 方 保 男	佐 世 保 ス ケ ッ チ	土 師 一 也								
M O Y A	音 成 三 男	鳩 と 少 女	杉 本 好 守 子								
こ い の ぼ り	金 子 剛	花 増 長	杉 本 弘 次								
リ ラ の 花 咲 く	蒲 原 密 雄		深 川 善 平								
無	川 本 達 也	草 絵	原 深 草 広 平								
ば	菊 地 義 泰		福 成 良 男								
玄	北 島 兵 一	崎 暮	古 川 誠 逸								
猫 は 死 ん だ	古 賀 和 夫	猿 と 四 人 の 男	久 富 邦 夫								
女	上 滝 泰 嗣	生 (73 - 6)	平 方 和 善								

少年の日
 壁と鳥の詩
 初夏ハッ手
 沖縄 花
 成長計画 No. 7
 麦の頃
 ビルの見える風景
 アトリエの窓辺
 帰え る
 天草通詞島遠望
 カラ ー
 響
 阿蘇の噴火孔風景
 作品 73 — 7 — 5
 蒼い 雫
 西堀端風景
 熱い群れ (モロッコ)
 長崎風景 (マリア園)
 水田風景
 佐世保風景
 山メトロのケ ー
 札幌の公園
 静寒 園物椿

◎彫 刻

風 ト ル ソ 化
 ト ル ソ 年
 縄をなう少年
 きよ子 その2
 希 い 望
 若念 日
 牛 に 乗 る

平川経高
 廣島 巖
 真木 昭
 真崎 団
 松林 清
 光武 次
 官崎 繁
 牟田口 貞
 山口 孝
 山田 比古
 吉田 昭彦
 吉田 進一
 吉田 肇
 若林 景光
 毛藤 忠行
 山田 直明
 江口 誠一
 井手 富進
 納勳 健吾
 兵野中 勝正
 藤田 秀穂
 内山 孝彦
 山村 猛蔵
 松本 弘二

井手誠二郎
 古賀義治
 成富宏
 服巻栄児
 古武藤三
 山本民博
 南賀忠
 古賀忠

◎工 芸

薰風 (型絵染)
 月と太陽
 色絵 笹絵 鉢
 方甌 (ほうろう)
 流紋
 釉裏金 彩青 釉壺
 和紙 染花紋鉢
 流影
 染付花器 (染付群れ)
 影
 朝鮮 薊 紋
 岳 (たけ)
 染付ガラス 掻取 紋様
 海の 碑
 型絵 染鉢
 染付 深鉢
 背白 磁花 瓶
 型絵染着物 (金鳳樹文)

落葉 葉
 天目 釉地 紋唐華
 線紋 壺
 流紋 動
 燿変 天目 茶碗

塩釉鉄砂黒流門陶鉢
 輪甌
 方銅花器
 鑄版擢更沙帶郭公花文
 木版

相川紀子
 青木稔善
 今尾 弘
 岩川 泰彦
 小野 珀子
 小江口 勝美
 江草場 正人
 斉藤 勉
 城口 秀男
 田中 テル
 辻 貞一
 辻 毅彦
 鶴丸 慶子
 中村 清見
 樋渡 陶六
 平坂 純

藤井良明
 前田 泰昭
 松尾 次郎
 松尾 重利
 松本 平

丸田正美
 宮尾 正隆
 岩尾 弘
 中牟田 佳彰
 鈴田 照次

(3) 郷土の先覚者書画展

主 催 佐賀県立博物館
 会 期 昭和48年7月14日～8月10日
 会 場 大展示場
 観覧料 常設展と併設のため観覧料は別途徴収しなかった。

展 示 概 況

佐賀県は藩政時代、佐賀藩、唐津藩、対州藩および天領にわかれ、その文化は、中央の影響を受けながらも、あらゆる分野で先哲者をはじめ、多くの先人の努力により肥前独自の発達をとげてきた。また幕末から明治初期にかけては、特に多くの人材を輩出し、黎明期の明治文化を築いた人々が多い。

しかし、これらの方々の遺作等は、これまで一般に紹介される機会が少なかったので、当館では、その直筆の書、画を一堂に展覧し、先覚者の業績と遺徳をしのび、これからの郷土文化の向上発展に資するため、この展覧会を開催した。

ここでとりあげた先哲者は52名で、書60点、画58点、計 118点であった。なお今回紹介できなかった人々については、今後調査、研究を進め逐次紹介していく計画である。

なお、この展覧会に出品された書画の写真及び釈文、略伝等を付した図録「郷土の先覚者書画」89頁）を刊行した。

また、会期中に講演会「近世美術史上における中央と地方について」（講師、九州芸術工科大学教授 岸田勉氏）を開催したところ多数の聴講者があり盛会であった。

出 品 目 録

資 料 名	作 者	数 量	規 格
洪浩然書屏風	洪 浩 然	6 曲 1 隻 各	131.0×53.0 紙本墨書
“	“	“	“ “ “
竜天善神図	大木 英鉄	1 幅	100.0×46.5 紙本著色
白山権現図	“	“	“ “ “
七夕の図	小原友閑斎	1 幅	181.5× 168.0 “
河上の図	“	“	41.6×65.5 絹本著色
子貢図面賛	鍋島 綱茂	“	122.0×38.8 “
曾子図面賛	“	“	“ “ “
子路図面賛	“	“	“ “ “
三十六歌仙図	“	1 帖 各	21.0×18.0 “
秋海棠図	“	1 幅	39.5×55.2 “
夏景山水図	広渡 雪山	“	97.5×46.0 紙本水墨
長 歌	山本 常朝	“	92.3×35.3 紙本墨書
文廟記（部分）	多久 茂文	1 卷	34.5×390.0 “
華堂開宴祝文	石井 鶴山	1 幅	28.0×63.2 “
与賀神社縁起図	永松 玄偲	“	197.0×160.7 絹本著色
鯉 図	天竜 道人	1 幅	102.5×43.0 絹本著色

松に鷹図		天竜 道人	1 幅	107.5×35.2	〃
賀文「賀馬場数君子」		吉武 法命	〃	29.0×41.0	紙本墨書
書簡「呈峯道兄」		富田 才治	1 面	28.2×21.0	〃
福祿寿図		三浦 子璫	1 幅	114.5×38.2	紙本水墨
摩利支天図		〃	〃	94.0×43.0	紙本著色
齊 聖		鍋島 治茂	〃	133.5×56.3	紙本墨書
廣 淵		〃	〃	〃	〃
七言一行書		古賀 精里	〃	131.3×27.3	〃
〃		〃	〃	〃	〃
〃		〃	〃	〃	〃
「山色揺光」	七言絶句 前二句	〃	〃	155.2×50.0	絹本墨書
「山色揺光」	七言絶句 後二句	〃	〃	〃	〃
山水人物図		白如斎成真	〃	116.5×37.5	紙本淡彩
琴棋書画図		〃	〃	〃	〃
高砂図		中島 藍皐	〃	104.5×47.4	絹本淡彩
門舞図		長谷川雪旦	〃	96.0×17.0	紙本淡彩
「抱膝南陽」	七言絶句 二行書	古賀 穀堂	〃	114.8×31.0	紙本墨書
「欲送一生」	六言二行書	〃	〃	98.0×28.8	〃
「吾翁消白」	七言絶句 二行書	古賀 侗葬	〃	126.0×27.5	〃
「鋭鋒輕管」	七言絶句 三行書	〃	〃	127.5×27.5	〃
竹図屏風		草場 佩川	6 曲 1 双	154.0× 362.0	紙本金地水墨
竹図十二撰屏風		〃	〃 各	136.0×50.7	紙本水墨
鶴図画賛		〃	1 幅	128.7×51.0	絹本水墨
梅図画賛		〃	〃	128.6×51.2	〃
「大丈夫心事」	二行書	正司 考祺	〃	132.0×28.6	紙本墨書
家 訓	二行書	〃	〃	132.5×58.5	〃
「淹花移石」	七言絶句 三行書	鍋島 直與	〃	110.3×29.7	〃
梅図画賛		〃	〃	89.0×35.7	絹本水墨
玳瑁旦図		武富 圯南	〃	119.2×39.0	〃
古梅図画賛		〃	〃	135.0× 120.0	紙本墨書
「堤上銀鞍」	七言絶句	古賀 素堂	1 扇	15.0×46.2	紙本墨書
「松下問童」	五言絶句	〃	〃	〃	〃
「吾非木偶人」	五言絶句 三行書	古賀 茶溪	1 幅	134.0×54.0	〃
「細雨斜風」	七言二行書	〃	〃	〃	〃
「時平壯士」	七言律詩 七行書	鍋島 直正	〃	170.0×72.0	絹本墨書
「先憂後樂」	二行書	〃	〃	171.0×99.0	紙本墨書
「潤上花零」	七言絶句 四行書	〃	〃	105.7×59.7	〃
春草図		古川 松根	〃	136.5×63.0	紙本淡彩
秋草図		〃	〃	〃	〃

秋景山水図	古川 松根	1 幅	113.7×62.7	紙本水墨
和歌「軍営の月」	〃	〃	106.0×60.0	紙本墨書
人物図	柴田 花守	1 面	64.5×29.5	絹本著色
大原女図	〃	1 幅	109.0×41.0	紙本淡彩
和歌二首	今泉 蟬守	〃	115.2×32.0	紙本墨書
同一首	〃	短冊	36.0×6.0	〃
〃	〃	〃	〃	〃
送行の序	枝吉 神陽	1 卷	31.7×107.0	〃
秋日登飛鳥山 七言絶句 二行書	〃	1 幅	129.0×29.8	〃
懸厓藍図	草場 船山	〃	181.0×49.0	〃
醉李白図 七言絶句 二行書	〃	〃	137.6×34.2	〃
一心斎	富岡 敬明	1 面	31.5×85.0	〃
「喝謙光蕊」 九行書	〃	1 幅	168.5×58.5	〃
「陰雲無跡」 七言絶句 二行書	谷口 藍田	〃	138.0×34.0	〃
発琉球舟中詩 七言絶句 二行書	〃	〃	〃	〃
「萬代乎」 和歌二行書	島 義勇	〃	119.0×29.8	絹本墨書
「野見當麻」 七言絶句 二行書	〃	〃	131.0×31.0	紙本墨書
「欲報邦家」 七言絶句 三行書	江藤 新平	〃	134.0×54.0	〃
「校兔已盡」 七言絶句 四行書	〃	〃	130.0×57.7	〃
「閑看」 二行書	小笠原長国	〃	108.2×39.2	絹本墨書
鴨縁有餘香	小笠原長行	〃	112.0×38.2	〃
白楽天詩「言者不知」七言絶句 三行書	〃	〃	116.0×38.2	〃
「満川梨雪」 七言絶句 三行書	〃	〃	140.0×31.0	紙本墨書
四季花鳥図	成富 椿屋	〃	141.0×83.0	絹本著色
山水図屏風 (部分)	高柳 快堂	6 曲 1 隻 各	136.3×43.2	絹本水墨
山水図屏風 (部分)	〃	〃	〃	〃
虎 図	岸 天岳	1 幅	129.0×41.8	絹本淡彩
桜下美人図	〃	〃	135.5×56.0	絹本著色
鶴 図	〃	〃	127.0×52.2	絹本淡彩
揚雲雁図 (部分)	〃	〃	28.0×31.0	紙本淡彩
岩雀図 (部分)	〃	〃	〃	〃
芦ニ雁図 (部分)	〃	〃	〃	〃
賢人清居図	広渡 心海	〃	134.0×58.0	紙本水墨
農耕図	〃	〃	129.0×59.0	紙本淡彩
山水楼閣図	〃	〃	〃	〃
菊紅葉山鳥図	長谷川雪塘	〃	117.5×41.0	絹本著色
宮廷人物図袋戸	〃	1 面	25.7×55.5	〃
〃	〃	〃	〃	〃
能舞図屏風	〃	2 曲 1 隻 各	146.0×56.5	〃

能舞図屏風	長谷川雪塘	2曲1隻	各	146.0×56.5	絹本著色
石垣山詩 七言絶句 二行書	佐野 常民	1幅		135.0×34.8	絹本墨書
「撒空煙火」 七言二行書	〃	〃		147.5×40.4	紙本墨書
「紅顔歳々」 七言絶句 四行書	大木喬任	〃		145.0×56.0	〃
魏文帝燕歌行 七言律詩 八行書	〃	〃		149.0×65.5	絹本墨書
富士山図画賛	副島 種臣	1面		42.0×91.2	〃
評清政府要人 六行書	〃	1幅		138.0×59.6	〃
「衆人皆醉」 七言二行書	〃	〃		178.0×56.6	紙本墨書
「必得其位」 三行書	〃	〃		150.5×78.1	〃
漢詩六撰屏風	中林 梧竹	6曲1隻	各	137.0×51.5	〃
明月図	〃	1幅		152.0×83.0	紙本水墨
マンドリンを持つ少女	百武 兼行	カンバス		114.0×82.0	油彩
老婦人像	〃	〃		53.0×56.0	〃
イタリー風景	〃	〃		41.0×70.0	〃
示鹿城會諸員 四行書	鍋島 直彬	1幅		136.0×65.0	紙本墨書
竹 図	〃	〃		136.0×67.0	〃
寿詞屏風	西川 春洞	2曲1隻	各	137.0×67.0	〃
〃	〃	〃		〃	〃
無 量	中原南天棒	1幅		33.0×64.2	〃
寒山図画賛	〃	〃		129.0×48.2	〃
拾得図画賛	〃	〃		〃	〃
「河上溪山」 七言絶句 三行書	久米 邦武	〃		133.7×47.0	〃
久能山詩 七言絶句 二行書	〃	〃		128.4×31.0	〃

(4) 第4回日展

主 催 社団法人日展、佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀市、佐賀市教育委員会、佐賀県立博物館
西日本新聞社

会 期 昭和48年8月25日～9月24日

会 場 1～3号展示室、大展示室、ロビー

展 示 概 況

日本で最大規模の美術団体である日展は、四年前、組織の大幅な改新を行ない、若さを導入したが日本の美術のアカデミックな牙城という誇りは今日も脈々と受けつがれている。

今回、5年ぶりに佐賀で開催されることになり、日本画、洋画、彫塑、工芸、書の五科から四百数十点が展観された。

会期中、約七万人の観覧者があり多大の反響があった。

◎第一科 日本画

主 な 出 品 目 録

雨の窓	永山十志夫	裸婦	村岡平蔵
森い実	山崎隆史	入り江の聖堂	石本秀雄
青の前の	三谷十糸子	管弦祭市	井手宣通
檻富士	堂本元次	朝間山夕月	筒井博三
深秋人	野田九浦	浅間山夕月	小山敬三
坐す森	山口華楊	早牡丹	小辻永馬
白馬の潮	高山辰雄	桜島	鈴木千久
上げ潮	東山魁夷	早春山	田崎広助
母子	岩永京吉	フードの女	納富一也
生きる	中尾英武	勢すきと	高田原輝
虹立つ	能島和明	鳩と幼女	吉田進一
昇本の木	麻田辨次	昼さがり	杉本好守
一映	小栗竹喬	有明海遠望	深川善次
暦	立石春美		菊池義泰
マンガの女	杉山寧勢		
蒼苑	三輪晁秋		

◎第二科 洋画

開扉	奥山藤一
イル・ド・フランス	内山孝
北の漁村	葛西四雄
奥日光	大久保作次郎
舞	鬼頭鍋三郎
イスラムの街	山口猛彦

◎第三科 彫塑

華裸	婦風	平原孝明
熱韻		清水多嘉示
佇農		北村西望
農場の朝		畫間弘
ポーズする乙女		山本民二
フォーム I		古賀忠雄
		松田尚之
		三坂耿一郎

◎第四科 工芸

牛		山 崎 覚太郎
白 磁 花 鉢		井 上 治 男
深	耀	城 秀 男
連 作「豊和」		青 木 稔 雄
秋	映	清 水 六兵衛
碧	容	加 藤 舜 陶
展		中里太郎右衛門

◎第五科 書

魯	を	望	む	青 山 杉 雨
狂			環	西 川 寧
王	維	詩		天 石 東 村
雪		見		日比野 五 鳳
翔		戀		金 子 鷗 亭
王	維	の	詩	山 口 流 水

(5) 九州沖縄工芸秀作展

主 催 九州沖縄文化協会、九州沖縄各県、北九州市、福岡市、九州沖縄各県、北九州市、福岡市
教育委員会

後 援 文化庁ほか

会 期 昭和48年 9月29日～10月 5日

会 場 3号展示室

観覧料 個人
大人 200円 大・高生 150円 小・中生 100円
団体 (団体は20名以上)
大人 150円 大・高生 100円 中・小生50円

展 示 概 況

九州沖縄文化協会と九州沖縄各県教育委員会の共催による九州沖縄芸術祭は昭和44年より開催されているが、昭和48年度の展示部門の公開事業として企画されたのが、この工芸秀作展であった。

その内容は、九州沖縄文化圏内の現代作家による工芸秀作展で9月29日より10月5日までを会期として佐賀県立博物館の3号展示室で開催された。その開催意図は、明日の西日本地域の工芸を方向づける、といった大きな課題の下で企画され活発な意欲的な活動が続けている工芸作家の選抜展であった。

出品作家の選抜は、中央展や地方県展で意欲的な作品を発表している実績のある作家を各県の教育委員会が推薦した。

出品者は86名、113点におよんだが、陶芸をはじめ、染織、漆芸、金工、木竹工、人形など多彩な異色ある最近作が発表された。本展は佐賀県が当番県であり、佐賀会場を基点として各県巡回したので、佐賀会場には、各県教育庁の文化課の担当者や、会場側の専任職員らが集り、展示方法や普及方法が協議された。

出品物は陶芸作品が最も多く次で染織作、漆芸作品、木竹工、金工作品、その他の順であり、九州沖縄文化圏内の陶芸の占める比重がいかに大きいかを示した。特に注目をあびたのは、沖縄県より、風土性豊かな染織品や、伝統的な技術による陶芸が出品されたことであった。

出品作をとおして批評といえば、漆芸や木竹工芸品の出品が少なく、また余りにも保守性が強く総じて現代的な創作性が欠けていることであった。

隔年毎に、このような工芸展を広地域にわたって開くような要望もあったが、はじめての催しとしては、その出品物が日常の生活と結びついていただけに反響を呼び、半ば成功であったといえよう。

○陶 芸

虚無僧蓋茶壺
 白釉かけ流深鉢
 白釉打架け舟徳利
 灰釉ゾーガン鉢
 水 鉢
 高取丸壺茶入
 灰釉草花文大皿
 上野肩衝茶入
 古上野釉刷毛櫛目鉢
 鉄線紋蓋物
 鉄釉大壺
 天目「豊」
 青白磁壺
 郭
 色鍋島花鳥文花瓶
 色絵すすき穂文鉢
 和紙染三ッ葉文鉢
 濁手草花文鉢
 南天文鉢
 白磁牡丹彫鉢
 釉裏金彩黄釉鉢
 岳
 染錦天平紋様花瓶
 青瑩壺
 叩き壺
 海の碑
 朝鮮唐津水指
 絵唐津魚文鉢
 青白磁花瓶
 錦草花文絵深鉢
 白磁花瓶
 耀変花器
 塩釉鉄砂流し文陶鉢
 壺
 潮流
 柿天目釉「映」
 立

出 品
 大 田 熊 雄
 “
 “
 梶 原 二 朗
 梶 原 藤 徳
 亀 井 味 楽
 熊 谷 保 興
 熊 谷 紅 陽
 高 鶴 元
 山 本 源 太
 “
 青 木 龍 山
 井 上 萬 二
 県 有
 今 泉 今 右 衛 門
 今 泉 善 詔
 江 口 勝 美
 酒 井 田 柿 右 衛 門
 酒 井 田 正
 奥 川 忠 右 衛 門
 小 野 珀 子
 田 中 一
 辻 貞 男
 中 島 宏
 中 里 重 利
 辻 毅 彦
 中 里 宗 白
 中 里 太 郎 右 衛 門
 樋 渡 陶 六
 中 村 清 見
 “
 前 田 泰 昭
 丸 田 正 実
 松 尾 次 郎
 松 尾 重 利
 溝 上 秀 次
 宮 尾 正 隆

目 録

象嵌青磁壺
 三彩唐華文耳付壺
 油滴水指
 茶 碗
 朝鮮唐津水指
 茶菓セット (千段入太白)
 壺黄結晶
 深 鉢
 抹茶茶碗
 粉引壺
 茶碗高麗写
 飾皿窯変釉
 辰砂釉花瓶
 抹茶盃
 刷毛目大壺
 飴釉青流蓋付壺
 裂 (れつ)
 紫袋 (しぶくろ)
 穂
 彩色花器
 赤絵八寸鉢
 赤絵面取壺
 土瓶セット
 魚文鉢A
 魚文鉢B
 ○染 織
 ろうけつ着物「草野」
 献上博多七献立八寸名古屋帯
 城 塞
 ファンタジー
 型絵染 (から草華文)
 久留米緋「霞」
 久留米緋オール綿 125立亀甲
 “ 正藍綿釉
 “ 「柿の花」
 群鶴 (草木染手織屏風)
 型絵染着物「山芹文」
 重

竹 下 吉 太 郎
 横 石 圭 介
 竹 下 吉 太 郎
 “
 横 石 公 介
 田 沢 大 助
 樋 口 太 一
 井 上 泰 秋
 “
 小 川 哲 男
 近 重 真
 “
 村 山 一 壺
 “
 黒 木 力
 坂 本 茂 木
 有 山 長 蔵
 大 畠 久
 尾 之 下 彰 三
 尾 前 喜 八 郎
 新 垣 栄 三 郎
 “
 “
 金 城 次 郎
 “
 “
 伊 藤 倭
 小 川 善 三 郎
 二 科 十 朗
 大 谷 葉 子
 高 畠 智 恵 子
 松 枝 玉 記
 森 山 虎 雄
 “
 “
 松 枝 玉 記
 横 田 富 生
 鈴 田 照 次 男
 城 秀 男

型絵染着物「土佐みずき」	平 坂 純	乾漆花器彫漆「珊瑚礁」	津 波 敏 雄
絞り飾布	堀 野 美沙子	○金 工	
屑 林	米 田 明 生	器	江 藤 日出男
樹 魂	吉 田 向 村	イタリア蠟鋳銅花器	中牟田 佳 彰
綾紬着尺「蘇芳飛白」	秋 山 真 和	わが国蠟鋳銅花器	〃
螺 旋	岩 橋 正 輝	肥後象嵌「硯屏」	米 光 太 平
紺飾り布	大 城 志津子	○木 竹 工	
花織帯地	〃	盛籠（流れ）	下 田 和 泉
ロートン織帯地	〃	竹盛器「海の表情」	宮 崎 珠太郎
芭蕉布紺 A	平 良 敏 子	渦潮小箱（漆）	森 夜 潮
〃 B	〃	蒔絵飾鉢	檜 原 長 甫
花織綿衣	宮 平 初 子	樹幹蒔絵文笥	小 林 毅
手 縞	〃	紫露草蒔絵菓子鉢	〃
花織手巾	〃	○人 形	
首里上布道屯	〃	高雄の朝	亀 田 均
手縞綿衣	〃	兄 妹	山 村 延 輝
漆 芸		月	武 吉 国 明
呂色乾漆盛器	箴 島 鉦 一	○べっ甲	
文庫箱	川 俣 芳 洲	べっ甲「次分ピン」	原 口 惟 宏
彫漆放生池文内微塵貝塗硯箱	前 田 孝 允		

(6) 理科作品展

○佐賀市支部展

主 催 佐賀県立博物館、佐賀県理科教育振興会佐賀市支部
 会 期 昭和48年9月29日～10月1日
 会 場 大展示室
 観覧料 無 料
 出品数 小学校 118、中学校53、計 171
 入選数 小学校 39、中学校19、計 58

○佐賀県展

主 催 佐賀県立博物館、佐賀県理科教育振興会
 会 期 昭和48年10月3日～10月6日
 会 場 大・中展示室
 観覧料 無 料
 出品数 小学校 185、中学校41、高等学校9、計 235
 特選数 小学校34、中学校18、高等学校9、計61
 入選数 小学校35、中学校8、高等学校0、計43

(7) 装飾古墳壁画展

主催 佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館
後援 文化庁、佐賀県市町村教育委員会連合会、佐賀県小学校教育研究会社会科部会、佐賀県中学校教育研究会社会科部会、佐賀県高等学校教育研究会社会科部会佐賀県造形教育研究会
会期 昭和48年10月13日～11月4日
会場 1・2・3号・大展示室
観覧料 個人
大人 100円 大・高生50円 中・小生30円
団体（団体は20名以上）
大人80円 大・高生30円 中・小生20円

記念講演会

日時 昭和48年10月13日（土）午後2時から
会場 佐賀県立博物館 中展示室
演題 「装飾古墳壁画」のしくみ
講師 東京芸術大学名誉教授 日下八光氏
図録 装飾古墳の壁画

展示概況

装飾古墳は、5世紀後半から7世紀にかけて営まれた。

地域的には西は九州から東は東北地方にまで広く分布しているが、なかでも有明海に面した筑後川と菊池川の流域に最も多く分布し、九州の古墳文化を特徴づけている。

そこで本館では、文化庁が昭和30年から東京芸術大学名誉教授日下八光画伯に委嘱して作成した装飾古墳壁画模写を中心に、装飾古墳壁画展を企画した。

壁画収録の対象とした古墳の数は59基である。展示は全館を使用し、長崎・佐賀・福岡・熊本・大分・本州の各地に分け、壁画模写68点・拓本31点、線刻された古墳石材2点・壁画写真83点・解説・模型など合計191点の資料を出陳した。そのほか関連資料として古墳時代の各種遺物も展示した。

この企画に当たり文化庁をはじめ県内教育機関の後援を得、一般の装飾古墳への理解と文化財保護への関心を高め、好評のもとに展覧を終了した。

佐賀県

田代太田古墳 奥壁復原模写

奥壁復原模写

前室両袖石復原模写

西原古墳 石棺破片

西隈古墳 石棺前面写真

石棺前面拓本

伊勢塚 奥壁写真

勇猛寺古墳 1号石室写真

1号石室左袖石拓本

2号石室線刻写真

2号石室線刻拓本

3号石室線刻写真

3号石室線刻拓本

永池古墳 閉鎖石線刻写真

閉鎖石線刻拓本

竜王崎6号墳 左袖石線刻写真

左袖石線刻拓本

古賀山古墳 石室線刻写真
右側壁線刻拓本

米ノ隈古墳 石室線刻写真
奥壁線刻拓本

長崎県

長戸鬼塚古墳 石室線刻写真
前室左側壁線刻拓本

丸尾古墳 石室線刻写真
石室線刻拓本

善神古墳 石室線刻写真
奥壁線刻拓本
側壁拓本

浦安古墳 石室線刻写真
右側壁線刻拓本
左袖石線刻拓本

福岡県

竹原古墳 前室正面戸口左側壁面模写
文化庁

前室正面戸口右側壁面模写
文化庁

前室正面戸口右側壁面復原模写

後室奥壁模写 文化庁

王塚古墳 石室形架石裏面壁面模写
文化庁

石室形架石支柱壁面模写
文化庁

右屏風石壁面模写 文化庁

右燈明台壁面模写 文化庁

左燈明台壁面模写 文化庁

後室前壁楣石壁面模写
文化庁

後室前壁下部壁面模写
文化庁

後室前壁左側壁壁面模写
文化庁

奥壁壁面模写 文化庁

後室左側壁壁面模写 文化庁

石室形架石上面及縁壁面模写
文化庁

後室棺床前方側面壁面模写
文化庁

後室棺床左屏風石壁面模写
文化庁

石室形左側支柱壁面模写
文化庁

前室正面戸口右側壁壁面模写
文化庁

後室前壁右側壁壁面模写
文化庁

右屏風石壁面模写 文化庁

右燈明台左燈明台壁面模写
文化庁

後室石室形架石壁面模写
文化庁

後室棺床左屏風石壁面模写
文化庁

後室棺床側面壁面模写
文化庁

後室左側壁復原模写 文化庁

後室右側壁復原模写 文化庁

後室前壁下半復原模写
文化庁

前室正面戸口右側壁復原模写

前室正面戸口左側壁復原模写

五郎山古墳 後室左側壁模写 文化庁

後室奥壁上壁模写 文化庁

後室奥壁下部模写 文化庁

後室右側壁上壁模写 文化庁

後室右側壁模写 文化庁

日輪寺 柳壁線刻写真

浦山古墳 石棺内面写真

石棺奥壁拓本

石棺内左右側壁拓本

下馬場古墳 前室正面袖石壁面写真

奥壁壁面写真

後室左・右壁面写真

寺徳古墳 後室右側壁壁面写真

日ノ岡古墳 左側壁壁面模写 文化庁

左側壁壁面模写 文化庁

奥壁壁面模写 文化庁

右側壁壁面模写 文化庁

羨道左側壁壁面模写 文化庁

	羨道右側壁壁画模写	文化庁	ナギノ横穴	横穴外景写真
	羨道天井壁画模写	文化庁		7号横穴入口飾縁写真
珍敷塚古墳	後室奥壁壁画模写	文化庁		横穴内部浮彫写真
古畑古墳	後室奥壁壁画写真		石貫穴観音横穴	入口飾縁写真
鳥船塚古墳	奥壁壁画写真			墓室奥壁浮彫写真
重定古墳	後室右側壁壁画模写	文化庁	原横穴	横穴外景写真
	後室奥壁壁画模写	文化庁		墓室左壁線刻写真
	前室正面戸口通路左側壁壁画模写	文化庁	大坊古墳	石屋形奥壁壁画写真
塚花塚古墳	後室奥壁壁画模写	文化庁	永安寺東古墳	前室右側壁壁画写真
原古墳	奥壁壁画模写	日下八光		前室左側壁壁画写真
石人山古墳	石棺写真			前室正面戸口左・右壁壁画写真
	石棺屋根線刻拓本		永安寺西古墳	側壁線刻壁画写真
	石人像写真		釜尾古墳	石屋形奥壁壁画写真
萩ノ尾古墳	後室奥壁壁画写真			石屋形前壁壁画写真
倉永古墳	奥壁線刻拓本		千金甲甲古墳	奥壁石障浮彫写真
	奥壁線刻写真			左壁石障浮彫写真
熊本県			千金甲乙古墳	石屋形右側壁線刻壁画写真
弁慶ガ穴古墳	前室右側壁中央部壁画模写	日下八光		石屋形左側壁線刻壁画写真
	前室左側壁中央部壁画模写	日下八光	井寺古墳	石障線刻壁画写真
	前室正面戸口右側壁壁画模写	日下八光		奥壁石障拓本
	前室正面戸口通路右側壁壁画模写	日下八光	桂原古墳	奥壁壁画写真
	前室正面戸口通路左側壁壁画模写	日下八光		側壁線刻壁画写真
	前室正面戸口左側壁壁画模写	日下八光		側壁線刻壁画拓本
チブサン古墳	後室石棺内壁正面中央壁画模写	文化庁	大戸鼻南古墳	石棺右側内壁写真
長岩横穴	横穴外景写真			石棺右側内壁文様拓本
	108号横穴外壁浮彫写真		大戸鼻北古墳	槨壁線刻文様写真
	後室石棺内壁正面左壁画模写	文化庁		槨壁線刻文様拓本
	後室石棺内壁右側面壁画模写	文化庁	長砂連古墳	左側壁線刻文様写真
鍋田横穴	27号横穴外壁壁画写真			左側壁線刻文様拓本
	27号横穴壁画部分写真			右側壁線刻文様写真
			広浦古墳	石棺内壁浮彫写真
				石棺内壁拓本
			鴨籠古墳	石棺蓋外面線刻拓本
				石棺蓋文様写真
			五反田古墳	右側槨壁線刻拓本
				奥槨壁線刻文様写真
			大蔵蔵東麓古墳	石棺内壁線刻写真
				石棺内壁線刻写真拓本
				線刻面部分写真

城 本 横 穴	横穴外景写真 7号横穴外壁浮彫写真 11号横穴外壁浮彫写真
京 ガ 峰 横 穴	横穴外景写真 2号横穴左・右外壁浮彫写真 1号横穴外壁浮彫写真
大分県	
穴 観 音 古 墳	後室奥壁壁画写真
ガランドヤ古墳	後室奥壁壁画写真 後室奥壁壁画部分写真
報恩寺第3号墳	前室正面左右袖石壁画写真 後室入口楣石壁画写真
大阪府	
高 井 田 横 穴	羨道左側壁線刻壁画模写
奈良県	
高 松 塚 古 墳	石槨内部全景写真 奥壁壁画写真 九州歴史資料館 右側壁壁画写真 九州歴史資料館 左側壁壁画写真 九州歴史資料館
福島県	
清 戸 迫 横 穴	奥壁壁画模写 日下八光

(8) 第23回佐賀県美術展

主 催 佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館
 会 期 昭和48年11月17日～11月25日
 会 場 1階ロビー、1・2・3号・大展示室
 観覧料 個 人 団 体 (団体は20名以上)
 大人 100 80
 大・高生 80 50
 中・小生 30 20

展 示 概 況

県内在住者を対象に、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、宣伝美術の7部門にわたって一般公募して審査を行い、入選作に依頼作品および審査員の作品を加えて展観し、本県美術の発展向上に資するものである。出品総点数 358点。

出 品 目 録 (受賞作・無鑑査・招待・審査員)

◎日本画						夜 明 け の 林 で						小 杉 奨 太						
影	と	光	池	田	利	輔	夜	明	け	の	林	で	小	杉	奨	太		
六	月	庭	堤	山	綾	子	楽	日			B		吉	田	民	憲		
菱			中	岡	一	義	然						先	崎	比	古		
蓮			西	岡	未	由	流						山	田	茂	雄		
野	の	仏	納	富	亀	次郎	伊	万	里	湾	暮	色	筒	井	健	吾		
原	始	林	大	石	為	次郎	風	を	待	つ	群	景	兵	動	誠	一		
寺	の	あ	小	柳	節	子	陽	美	と	鳩	た	ち	井	手	好	守		
窓		風	市	丸	京	吉	久	に	乗	った	馬	書	杉	本	西	緒		
満		潮	岩	永			船				秋	田	山	口	勝			
◎洋 画						仲 水 遊 画 陣 北 ラ メ ル						秋 田 朝 女 兜 偶 フ 祭 場						
船	金	庫	と	古	時	計	水						深	川	善	次		
パ	イ	プ	の	5	本		遊	歩	道	の	の	朝	江	地	義	泰		
雨	の	バ	ス	停			画	室	織	と	廟	女	久	富	邦	夫		
青				年			陣	羽	祖	の	偶	兜	吉	田	進	一		
成	長	計	画	No.	8		北	港	馬	人	の	の	村	岡	重	視		
廃		抗		I			ラ			形	た	祭	内	山	平	蔵		
沈	黙	の	間				メ	ル	ヘ	追	祭	場	三	塩	清	己		
脱	皮		I				野	馬	の	岩			江	口	良			
疎	道	要	集	メ	モ		伊	豆	の				横	尾	靖			
た	こ	あ	げ	(Ⅱ)														
ふ	な	市	Ⅱ				◎彫 塑											
浮			く				F	君	の	首		落	合	た	き			
廃	船		Ⅱ				男		の	首		松	尾	浩	二			

流	れ	に	武	藤	三	男	蘇	東	坂	の	詩	山	口	信	行
裸	婦	像	古	賀	義	治	武	元	衡	の	詩	峯	中	道	平
は	か	を	山	崎	恵	一	百	人	一	首	抄	野	川	美	子
首	る	は	先	崎	民	憲	山	中	道	刀	士	北	井	枝	子
或	ポ	ズ	緒	方	敏	雄	日	本			歌	大	田	偉	雄
S		U	中	島	快	彦	長		恨		歌	高	崎		寛
S	先	生	山	本	民	二	唐				詩	小	島	由	美
◎工	芸						秋				日	北	串	正	夫
藻	(も)		辻	穀	彦	郎	岩				梅	大	辺	涯	山
蝕		C	郡	昱	郎	人			月	よ		平	川	朴	山
溪			草	正	彦	水		「風」	に	之	る	山	口	流	水
耀	(よう)		小	泰	子	城		元	山		詩	山	田	紫	城
	働		森	榮	明	嶽		禪	庭	堅	語	野	肥	春	嶽
白	磁	大	緒	方	政	堂		黄		の	朝	土	辺	松	堂
	響		前	田	泰			秋				池			
C		G	宮	尾	正	隆		◎写	真						
釉	裏	紅	中	島	均	子	哉		(ほう)			山	本	和	夫
釉	裏	金	小	野	珀	次			夜			副	島	次	郎
柿	釉	夕	溝	上	秀	男			網			山	宮	崎	資
青	白	磁	宮	崎	谷	子		す	ら	ぎ		鷺	崎	康	茂
型	染	着	長	谷	和	美		死		その2		中	島	哲	雄
和	紙	三	江	口	勝	純		阿	蘇	AUG73		成	富	幸	実
型	絵	着	平	坂	萬	二		T	O	N	ちゃん	池	田	義	雄
白	磁	壺	井	上	有			わ	ら	べ		百	田	正	信
耶		蘇	奥	川	忠	衛			葦			安	永	貞	一
白	磁	割	興	木	竜	山		千	瀉		童	川	原	盛	人
波		海	青	泉	善	詔		作	品		A	広	滝		登
染	付	墨	今	泉	今	右		一	つ		島	秋	吉		実
色	鍋	島	酒	井	田	右		大	気	汚	染	宮	崎		宏
乳	白	手	大	丸	辰	男		霧	の	放	牧	古	川	公	夫
リ	ズ	ム	中	里	無	庵		凍	宝	富	貴	最	所	三	敵
唐	津	茶	城	秀	男			国	か	使	徒	音	成	正	男
一		壺	中	里	太郎	衛		叩	い			藤	田	正	次
木	版	摺	鈴	田	照	次		◎宣	伝	美術					
◎書								カ	レ	ン	ダ	山	田	実	
呉	昌	碩	鍵	山	喜	代		佐	賀	史	跡	諸	石	重	利
去	来	の	諫	山	林	泉		破	局	高	伝	永	田	義	武
針	切	(重之の子の僧の集)	岩	永	春	子				の	思	大	宝	拓	雄

蓮池の獅子	小路久男	文覚さん祭り	池田勝利
エディトリアルデザイン		環境汚染シンポジウム	
佐賀人Ⅰ	長谷川 誠 次	「高まる不安」	宮原 栄 作
カレンダー No. 1	小杉 道 久	華吹雪緑姿絵	勝田 宏
書籍ポスター(三国志No.1)	木寺・中尾 筒井・前田	原子力火力発電問題 討論集会	中村 公 久
貯蓄増強ポスター	蒲原 紀 亜	話のための特集ポスター	藤 重 信
書籍ポスター		カレンダーのための イラストレーション	西島 伊三雄
古伊万里2人形	吉永 里 恵		
郷土民芸面浮立	中野 竜 彦		

(9) 第23回佐賀県高等学校美術展

主 催 佐賀県高等学校美術連盟
佐賀県立博物館
会 期 昭和48年11月28日～12月2日
会 場 大展示室
観覧料 無料
出品物 油彩、水彩約 200点

(10) 日本近代文学展

主 催 佐賀県教育委員会、佐賀県立図書館、佐賀県立博物館
後 援 佐賀大学、東京都近代文学博物館
協 賛 講談社、筑摩書房、図書月販
会 期 昭和48年12月1日～12月23日
会 場 1・2・3号、中展示室
展 示 概 況

日本の近代文学は、明治以来ほぼ1世紀を経て、いまや貴重な近代日本の文化遺産として、わたしたちの精神の糧となっている。

今回、漱石、鷗外をはじめ、近代日本文学史上のすぐれた文学者の著書、原稿、遺品等を一堂に展覧し、あらためて近代文学とはなにか、近代を生きた日本人とはなにかを理解し、同時に現代の日本人としていかに生きるべきかを学ぶ機会とするとともに、広く一般の観賞に供するため当展を企画した。また、とくに本県の将来をになう青少年に対し、豊かな精神形成のための指針をも提供しようとするものである。

出品物としては、東京都近代文学博物館をはじめ所蔵者各位から、明治、大正、昭和にわたる約二百名の文学者の著書、原稿、遺墨、遺品等約 2,000点を借用し、文学史的に展示した。

なお、当展は県内のみならず県外の文学愛好者からの反響も多大であった。

講演会 期日 12月8日(土)

会場 博物館大展示室

講師並びに演題

梅光女学院大学長 佐藤泰正氏

「漱石と現代」

作家 劉寒吉氏

「森鷗外と九州」

出品目録 (著作及び印刷物を除く)

中村 正直

詩幅 「留別田口江邨先生」

詩箋 「殿角玉寿詩興徒 ……」

” 「論語千文始進門 ……」

福沢 諭吉

詩幅 「一面真相一面空……」

末広 鉄腸

詩幅 「綺樓何處弄嬌態……」

坪内 逍遙

原稿 「大震災と芸術の将来」

書簡 「あて先不詳」

尾崎 紅葉

原稿 「伽羅枕」

句稿 「此内に啼けほととぎす矢来町」

書簡 「森鷗外あて」

山田 美妙

原稿 「佐久間大尉」

書簡 「森鷗外あて」

幸田 露伴

歌幅 「龍も出し池とやここに苺菜花咲く」

樋口 一葉

原稿 「たけくらべ」(草稿)

書簡 (田辺竜子あて)

重ねの下着

卒業証書

絵画 「にごりえ」(木村荘八筆)

「美登利」(大橋月皎筆)

馬場孤蝶句幅

「一葉の住みし町なり夕時雨」

馬場孤蝶色紙 「登どかぬ思ひと……」

半井桃水葉書 (一葉あて)

国木田独歩

原稿 「画について」

書簡 「岡落葉あて」

徳富 蘆花

書簡 「池辺吉太郎あて」(複製)

書幅 「天皇陛下に願ひ奉る」(複製)

文学碑銅版

徳富蘇峯書簡 「荒牧吉住あて」

泉 鏡花

原稿 「錦帯記断簡」

内田 魯庵

書簡 「結城素明あて」

島崎 藤村

原稿 「夜明け前」(複製)

書簡 「蒲原有明あて」

「島崎楠雄」あて2通

「宮地嘉六あて」

葉書 「田代ひで子あて」

「島崎楠雄」「島崎鶏二」「島崎翁助」

あて

「星野乱弘あて」

書幅 「古人のあとを求めず、古人の……」

島崎静子葉書 「田代ひで子あて」

田山 花袋

原稿 「号泣」

書幅 「瑤窓之内鎖歎歎何恋愁人翻夜衣却向」

徳田 秋声
 原稿 「小剣氏に対する親しみ」
 正宗 白鳥
 原稿 「根無し草」
 岩野 泡鳴
 原稿 「征服被征服」(上下2巻)
 近松 秋江
 原稿 「太原城敗退記」 敗戦の山西北部戦
 森 鷗外
 葉書 「森於菟あて」
 短冊 「朝梅」
 印譜帖 二冊
 灰皿
 椿山公生日額
 岡田三郎助画 「風景」
 雑記帳
 小金井喜美子
 詠草 (晶子添削)
 夏目 漱石
 原稿 「道草」 二枚
 書簡 「荒木秀一あて」
 “ 「小林修二あて」
 “ 「瀧田哲太郎あて」「濱武元治あて」
 葉書 「行徳二郎あて」(年賀)
 色紙 「本堂は十八間の寒さかな」
 短冊 「俳諧寺蕎麦湯句会……」
 新聞切抜 「行人」(朝日新聞)
 句額 「窓ひくし菜の花曇り夕明かり」
 書額 「即天去私」
 寺田 寅彦
 葉書 「五島寛平あて」
 書簡 「五島寛平あて」
 中 勘助
 書簡 「赤尾周一あて」
 木下杢太郎
 書簡 「長谷川時雨あて」
 永井 荷風
 新聞切抜 「瀬東綺譚」(朝日新聞)
 机辺雑玩図

句幅 「爪弾や竹の出窓のほたる籠」
 色紙 「行秋や雨ともならで暮るる空」
 短冊 「川風も秋となりけり釣の糸」
 谷崎潤一郎
 原稿 「若き日の和辻哲郎」
 書簡 「室生犀星あて」
 葉書 「森鷗外あて」
 佐藤 春夫
 原稿 「中国の怪談について」
 書簡 「座右宝編集室あて」
 堺 利彦
 原稿 「カアペンターの性欲論」
 短冊 「何が来て背中どやさか冬ごもり」
 武者小路実篤
 原稿 「志賀直哉」「正宗白鳥の思い出」
 色紙 「この道より我を生かす道なしこの道を歩く」
 志賀 直哉
 原稿 「志賀直哉の思い出(梅原龍三郎)」
 書簡 「山本実彦氏祝賀会あて」
 欠席届 (志賀貴美子)
 有島 武郎
 書簡 「長田秀雄あて」
 長与 善郎
 原稿 「古径氏の思い出」
 山本 有三
 原稿 「創作で立たうとする人々」
 野上弥生子
 書簡 「小松耕輔あて」
 宇野 浩二
 揮毫茶碗 「ゆめちやわん」
 広津 和郎
 書簡 「笠信太郎あて」
 書幅 「めげず忍耐強く執念深く生きるこれが私の云ふ散文精神です」
 芥川龍之介
 原稿 「誘惑」
 書簡 「菅虎雄あて」
 短冊 「唐寺の玉巻芭蕉肥りけり」

菊地 寛
原稿 「敵の葬式」
久米 正雄
原稿 「第一回文壇句会」(句稿)
句幅 「春雪銀座頌」
色紙 「関西大風害の跡を訪ねて」
久保田万太郎
原稿 「久米君と俳句」
青野 季吉
原稿 「新アジア文学論」
葉山 嘉樹
短冊 「桐の樹の花の歌」
中野 重治
葉書 「田中艸太郎あて」
徳永 直
原稿 「太陽のない町を見て」
横光 利一
書簡 「山本実彦あて」
「荒木精之あて」
色紙 「蟻壺上に餓えて月高し」
短冊 「寒梅しだいに雪の明るくて」
川端 康成
書簡 「佐藤佐喜男あて」
書幅 「水晶の珠数藤の花梅の花よ……」
井伏 鱒二
原稿 「有間皇子」
舟橋 聖一
原稿 「風の花園」
阿部 知二
原稿 「異端の文学」
堀 辰雄
原稿 「澄江堂遺珠(佐藤春夫編)自筆校正」
書簡 「葛巻義敏あて」
尾崎 一雄
原稿 「運という言葉」
色紙 「春風秋雨」
丹羽 文雄
原稿 「灯影」

色紙 「いっそ死なんと念へども」
石川 達三
原稿 「名画」
島木 健作
原稿 「満州の旅から還る」
亀井勝一郎
原稿 「文化人」
書簡 「加賀淳子あて」
色紙 「雨暑し鮎に塩ふる流しもと」
火野 葦平
原稿 「山芋」
" 「晩年五つの楽しみ」
" 「慶安大変記」
葉書 「田中艸太郎あて」
色紙 「たなごころしろきかせうけ……」
芸術院賞賞状、賞牌
短冊 「屏風」
画(河童大進軍)
ジョッキ
万年筆 二本 揮毫壺
林 芙美子
原稿 「小詩人」
書簡 「板垣隴穂あて」
デッサン 「花瓶と花」
岡本かの子
岡本一平戯画 二幅
伊藤 整
原稿 「感傷夫人」
" 「近代文学館の発足」
" 「名著複刻全集解説原稿」
色紙 「満眼春愁不可消」
太宰 治
書簡 「竹村担あて」
椎名 麟三
原稿 「自由」
野間 宏
原稿 「恋愛詩集」
色紙 「ものみなは炎の縛解いて馳けて行く」

武田 泰淳

原稿 「誤解の波」

三島由紀夫

原稿 「お嬢さん」

書簡 「玉城信一あて」

書類 「天地正大氣粹然鍾神州」

大岡 昇平

原稿 「名著復刻全集解説原稿」

大江健三郎

原稿 「敬老週間」

大佛 次郎

原稿 「郷愁」

吉川 英治

原稿 「新水滸伝」

色紙 「奈良へ来ても伊勢路に来ても見れば
見とれぬ……」

江戸川乱歩

原稿 「戦戦と舞台」

直木三十五

原稿 「滝夜叉雑話」

長谷川 伸

原稿 「お手柄喝来」

色紙 「手足寝床で四本ぐいとのはし」

尾崎 士郎

書簡 「竹村担あて」

色紙 「髑髏盡長城卒」

石坂洋次郎

原稿 「悪作家」より

〃 「ある日わたしは」

色紙 「生甲斐や雪は山ほど積りけり」

井上 靖

原稿 「すずめの誤解」

〃 「名著復刻全集解説原稿」

〃 「波濤」

松本 清張

原稿 「黒い樹海」

巖谷 小波

句幅 「禅堂に動く者あり蝸牛」

「桜咲く日本に生れ男かな」

鈴木三重吉

原稿 「象の鼻」

小川 未明

葉書 「田内長四郎あて」

坪田 譲治

原稿 「太郎の望み」

書簡 「竹村担あて」

色紙 「哀楽」

浜田 広介

色紙 「とよ秋のみあかしともしそなえつる」

土井 晩翠

色紙 「高原の夕ぐれ早く秋はきぬ……」

上田 敏

書簡 「笹川臨風あて」

薄田 泣菫

色紙 「絶ゆることなき永遠の……」

北原 白秋

原稿 「邪宗門解説注稿(矢野峰人)」

「BANBAN」

書簡 「大城有樹あて」

葉書 「原田種夫あて」

遺書 〃

詩幅 「鶯にかわつなきつく庭ありて……」

「白南風のてりはの野ばら咲きにけり
……」

書幅 「嵐かしやぐ珊……」

画 ヘルメット

高村光太郎

原稿 「詩稿」

、短冊 「ロダンの言葉」

色紙 「美ならざるなし」

三木露風

原稿 「馭戒問答」

千家 元麿

歌幅 「黒髪も肌も瞳も秋なれやわが愛ぐし
児を抱かま欲しき」

堀口 大学

原稿 「シュベルヴィエル」

葉書 「原田種夫あて」

萩原朔太郎

原稿 「詩人とジャーナリズム」

〃 「復讐と怨恨の芸術」

葉書 「馬場久治あて」

室生 犀星

原稿 「早春」

句稿 「若葉籠ゆきしらじらと豈かな」

北川 冬彦

色紙 「球根はしっとり肥えている……」

北園 克衛

短冊 「鳳仙花たほれ地に種子を散らしけり」

伊東 静雄

原稿 「健次郎君に捧ぐ」

草野 心平

原稿 「魚生粥」

色紙 「見えるは鉛の無限の天」

金子 光晴

原稿 「短歌について」

色紙 「月が出たドラムのような……」

金子 洋文

原稿 「白い殿堂」

吉野 秀雄

原稿 「作品月評」

落合 直文

短冊 「のどかにもあそぶなるかな春駒の野
邊のか寿みにならひかせつゝ」

佐々木信綱

書簡 「須知正和、房木芳雄あて」

短冊 「くろかりし山まつめひまほのあかみ
……」

「山みどりのことぶるこえものどかな
也……」

与謝野鉄幹

書簡 「安田秀二郎あて」

歌幅 「むらさきと白と浅葱とまじり多る早
月の線に花あやめさく」

色紙 「きぬ朽ちて巳があらはるる肩のこと
干潟に白き一ひらの貝」

与謝野晶子

書簡 「芥川竜之介あて」

葉書 「田代文次郎あて」

歌幅 「己が太郎二歳の牛の角とらえ友とす
るまで多だ生ひにけり」

「いつしかと月夜になりぬわがゆくは
天の川よりながき坂かな」

短冊 「さゝやかに雲までのぼる少女子の…
…」

石川 啄木

歌幅 「暇な時」(複製)

日記 三冊(複製)

正岡 子規

書簡 「高浜虚子あて」

葉書 「森鷗外あて」

句幅 「砂土手や西日をうけてそばの花」

長塚 節

書簡 「長塚整四郎あて」

伊藤左千夫

書簡 「長塚節あて」

島木 赤彦

原稿 「湖上」

葉書 「森鷗外あて」

歌幅 「静(短歌五首)」

斎藤 茂吉

原稿 「青山胤通、丸山作樂」

歌幅 「くに生ましたりけむ時の豊栄に八十
鳥かけて朝日かがよう」

歌幅 「大き聖いまし……」

色紙 「おとたてて茅のわびける山の上に秋
、の彼岸の光さしをり」

短冊 「流らふる」

絵 「南瓜」

朱肉入れ、硯箱、墨筆九本、硯、靴、下駄

釈 超空

歌幅 「さびしさをわれに告げむと……」

若山 牧水

原稿 「軒端の竹」「旅中即興」

書簡 「安成くら子あて」

〃 「大悟法利雄あて」

短冊 「春の木は水気ゆたかに鉋切れのよし
といふなり春の木を切る」
「それほどにうまきかと人のとひたら
ばなにとこたへむこの酒の味」
歌幅 「なしの木にまとへる藤の咲きいでて
梨かとぞまがふよしの花のあひに」
「ゆく水のとまらぬ心もつといへどを
りをり濁るまずしさ故に」
句幅 「かくかくと帆をまく音の静けさよ」
木下 利玄
葉書 「木下利朗あて」
短冊 「川風に つゝみの野菊花ゆれて……」
尾上 柴舟
歌幅 「まだきたつひばりもあらむなのはな
のきいろさやけきあけほのはた」
金子 薫園
歌幅 「ふるさとや何ぞと君のとひし花さく
らひろよ薄むらさきに」
色紙 「秋のかぜ遠きそらよりふききたり…
…」
書 「雅通」
前田 夕暮
色紙 「出水川のあからにぐりてながれたり
…」
短冊 「山原に人居して子をなして……」
〃 「向日葵は金の油をみにあいて……」
土岐 善磨
原稿 「ドンキホーテ」
歌幅 「やがて温室へ案内されつ朝めしにく
ひたるメロンはこの種類なりし」
窪田 空穂
原稿 「早春」
歌幅 「茅あおき小山まる山……」
短冊 「すゝき丘切りとほしたる赤植乃……」
吉井 勇
原稿 「島原の文反古」
葉書 「川田順あて」「橋本野酔あて」三枚
色紙 「寂しければ酒ほかひせむこよひかも
彦山天狗あらはれて来よ」

短冊 「寂しければ大徳寺にもゆきて見つ…
…」
「大土佐の干いわしをは焼きて酌む…
…」
〃 「桃やまの城にひとりの利休ゐて……」
歌幅 「かにかくに祇園はこひし寝るときも
枕のしたを水のながるる」
会津 八一
色紙 「かすかのよをさむみかも……」
太田 瑞穂
四賀光子色紙 「柑橘の実はくろきまで青くし
て……」
「述懐わがみのりいつとかか告げん…
…」
木俣 修
原稿 「明治、大正の歌人について」
〃 「名著複刻全集解説原稿」
色紙 「花」
宮 柁二
原稿 「冬の露」
近藤 芳美
原稿 「歌選後評」
斎藤 史
原稿 「原野」
高浜 虚子
原稿 「ホトトギス雑詠全集序稿」
葉書 「夏目鏡子あて」
「森鷗外あて」
句幅 「東山静かに羽ねの舞ひ落ちぬ」
「叱られし思い出もある子規忌哉」
短冊 「遠山に日の当りたる枯野哉」
「大空に伸び傾ける冬木哉」
「静かにも……」「春風や……」「や
り羽子の……」「秋晴れに」
萩原井泉水
原稿 「楠の木、序」
書簡 「松田一男あて」
葉書 「〃」
書幅 「松高白鶴眠」「到處春光為君新」

句幅 「にじ高し花は七いろ晴れてゆく」
色紙 「年輪八十末為老一輪春又春」
絵 佐賀城門
揮毫皿二 花瓶一
種田山頭火
句幅 「ほろほろ酔うて木の葉ふる」
短冊 「山暮れて山の明し」
尾崎 放哉
句稿 「四五日呑みなれた湯呑」他
飯田 蛇骨
原稿 「鶏譚」
水原秋桜子
色紙 「啄木鳥や落葉をいそぐ牧の人々」
「古き機布るき燭」
短冊 「秋晴れや天覧山を聳えしむ」
山口 誓子
色紙 「山窪は蜜柑の花の匂ひ壺」
中村草田男
原稿 句稿
句幅 「空は太初の青き妻より林檎受く」
青木 月斗
句幅 「老師一喝狸忽油壺」
「大関が睨みし海の霞かな」
石田 波郷
短冊 「客待ちの昼の金柑風あそぶ」
加藤 楸邨
色紙 「枯野起伏、明日という語のかなしさ
よ」
「棉はぜて黄河の没日はてもなし」没
日野 草城
短冊 「松明の長き煙やほととぎす」
古岡禪寺洞
書簡 「須知白塔あて」
色紙 「耕しや……」
色紙 「まっしろき蝶一つ居て時をはむ」
蒲原 有明
書簡 「内田巖あて」
「嬉野実あて」
「碇登志雄あて」

陶版碑原本 「有田皿山にて」(矢野峯人筆)
下村 湖人
原稿 「次郎物語第五部」
書幅 「水急不流月」「素其位而行」
「白鳥入蘆花」
唐津中学校々歌
卷子 鹿島小学校々歌
書簡 「田代文次郎あて」
「古館正次郎あて」
葉書 九通
色紙 「七そとせ生きて来にけり……」
「なほ生きむ願ひを……」
「七十路にふみ入る……」
「あるときは世を……」
サーベル一、軍帽、軍服、手帳一、ガ
口一、時計一、杯一、水滴一、絵具皿
一、書架箱蓋一、硯箱一、筆一、矢立
一、画帖、
宮地 嘉六
版画
吉田絃二郎
原稿 「江戸最後の日(序稿)」
「楠正成」
「思い出すまゝに」
「武蔵なる多摩の川原を……」
書簡 「吉田榮作あて」
「池田つるあて」
「碇登志雄あて」
歌幅 「小鳥よ来たれわが隅に……」
詩幅 「故郷の山青く雲白きころなりき……」
色紙 「梅さくや……」
通信簿二、賞状一、卒業証書一、
墨絵一、製図三、俳画二、胸章一、
中島 哀浪
原稿 「文芸日記」(二冊)「柿百首」
「背振」「郷土民謡」
「雪の言葉」
葉書 「橋本野酔あて三一通」
歌額 「かきもくと木にのぼりたる……」

「ふるさとの……」
 歌幅 「もののふの君賀血ぬれば……」
 「大君に召されゆくや……」
 懷中時計、万年筆、扇、キセル、印章
 三、矢立、硯箱、硯、墨、筆三、壺
 三好 十郎
 書簡 「中島哀浪あて」

河東碧梧桐
 句幅 「水仙に水させば我明か也」
 短冊 「鶴侶君子」「あしたみ都悲るみつあ
 かぬ……」

(1) マルケ展

主 催 読売新聞社、佐賀県立博物館
 後 援 外務省、文化庁、フランス大使館、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会
 会 期 昭和48年12月9日～12月19日
 会 場 大展示室
 展 示 概 況

フォーヴの代表的作家として著名なアルベール・マルケの作品は、日本人にも広く親しまれている。今回マルケ未亡人の好意により、フランス文化の理解と日仏両国の親善を一層深める目的で、マルケの代表作 100点を全国6ヶ所で展覧された。

展覧会中、県内外から多数の美術愛好者が訪れ、多大の反響があった。

主 な 主 品 物

コーヒー・ポットとレモンのある静物	1900年	油彩	カンヴァス	50×61cm
友人のアトリエでの「野獣派」の裸婦	1900年頃	油彩	カンヴァス	55×46cm
すみれの花とマルケの母の肖像	1900年頃	油彩	カンヴァス	65×54cm
ナポリの色合い	1908年	油彩	カンヴァス	65×81cm
赤い椅子の上の裸婦	1913年	油彩	カンヴァス	65×81cm
サン・ルイ島の突端	1928年	油彩	カンヴァス	73×92cm
トリエルの家	1913年	油彩	カンヴァス	42×34cm
ル・アーヴル港	1934年	油彩	カンヴァス	50×61cm
ボン・ヌフとサマリテーヌ	1935年	油彩	カンヴァス	81×100cm
ラマルルの船、ル・ピラ	1935年	油彩	カンヴァス	65×81cm
クラン・シュル・シェール、冬	1936年	油彩	板	33×41cm
ヴェネツィアの商船	1936年	油彩	カンヴァス	54×73cm
ボン・ヌフ、夜	1938年	油彩	カンヴァス	73×100cm
巴旦杏の樹	1943年	油彩	カンヴァス	61×50cm
ガルダイア	1921年	水彩		24×31cm

(12) 新遺跡資料展

主 催 佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館

会 期 昭和49年1月20日～2月8日

会 場 大展示室

観覧料 常設展と併設のため観覧料は別途徴収しなかった。

展 示 概 況

近年、県内各地で数多くの遺跡が発見された。

その結果、先土器時代から縄文時代への編年の確立が試みられ、人類初期の住居である洞穴、岩陰遺跡が明らかとなり、有明海沿岸においても縄文時代初期の遺跡が確認された。

また、弥生時代における大カメ棺群や、弥生時代から古墳時代へと移行する時の墓である方形周溝墓の調査が行なわれるなど、多大の成果が挙げられているほか、江戸時代初期の古窯跡にも年々科学的な調査が実施されるようになった。

そこで、これらの新発見資料を県内市、町、村教育委員会の協力を得、これらの資料を一堂に展示し、最近の発掘調査の成果を広く県民に紹介するとともに、郷土の原始、古代文化並びに、江戸期の古窯跡等の理解と、文化財保護意識の高揚に資する。

出 品 目 録

○先土器時代

- ・三日月町、老松山遺跡出土品（刃器、尖頭器、敲打器）
- ・三日月町、権現山遺跡出土品（刃器、敲打器）
- ・呼子町、小川島採集品（台形石器、ナイフ形石器、石刃）
- ・伊万里市、白蛇山岩陰遺跡出土品（細石核、細石刃、剝器、石刃）

○縄文時代

- ・伊万里市、白蛇山岩陰遺跡出土品（各種縄文式土器、石斧、石錐、石鏃、石核、石槍、石刃）
- ・西有田町、盗人岩洞穴遺跡出土品（貝殻瓦痕文土器、石槍、石鏃、砥石、石刃）
- ・伊万里市、金剛島遺跡出土品（曾畑式土器、石鏃、石斧）
- ・伊万里市、源平岩洞穴遺跡出土品（御領式土器、石鏃、石斧、食糧にいた貝の殻）

○弥生時代

- ・唐津市、万麓遺跡出土品（カメ棺、弥生時

代前期各種土器、挾入石斧、磨製石斧、石鏃、石ノミ）

- ・鹿島市、西塩屋貝塚出土品（弥生時代の各種打製石器、石鏃）
- ・佐賀市、開拓遺跡出土品（中期のカメ棺）
- ・中原町、姫方遺跡出土品（イモ貝製貝釧）

○古墳時代

- ・唐津市、寺の下遺跡出土品（各種祭祀用品）
- ・中原町、姫方原遺跡出土品（方形周溝墓内出土の各種土師器）
- ・中原町、姫方遺跡出土品（内行花文鏡）
- ・鳥栖市、本川原遺跡出土品（方形周溝墓内出土の各種土師器）
- ・小城町、丹坂峠古墳出土品（鉄器、鏡、装身具）
- ・呼子町、ヒサゴ塚古墳出土品（各種土師器、須恵器）
- ・唐津市、神集島古墳群出土品（鉄刀、鉄鏃、短甲、装身具、須恵器）
- ・伊万里市、銭亀古墳出土品（須恵器、鉄器各種装身具）

○中世

- ・大和町、西山遺跡出土品（江戸時代初期のスズリ石、滑石製舟、鉄仏）

○江戸時代

- ・武雄市、宇土の谷古窯跡出土品

- ・有田町、天狗谷古窯跡出土品
- ・有田町、山辺田古窯跡出土品
- ・有田町、猿川古窯跡出土品
- ・西有田町、迎の原古窯跡出土品

(13) 石本秀雄展

主 催 石本秀雄展実行委員会、佐賀県造形教育研究会、佐賀大学美術科同窓生、佐賀県立博物館

後 援 佐賀県教育委員会、佐賀県文化会議、佐賀大学有志一同、佐賀美術協会、緑光会（東光会佐賀支部）

会 期 昭和49年2月16日～2月24日

会 場 大展示室

展 示 概 況

石本秀雄氏は、画家として、また美術教育者として、多年にわたり本県の美術振興に多大の功績をもたらしている。また、その画業は東光展、日展等を通して中央にも大きな足跡を残しており、現在も第一線で活躍中である。

当展は、同氏の佐賀大学退官を記念して、40数年にわたる画業の代表作を一堂に展覧し、その偉業を讃えるとともに、広く一般の鑑賞に供するため企画したものである。

出品物は、初期から最新作までの95点（油彩70点、水彩、素描20点）であり、制作年代順に展示した。

県内外の美術愛好者から多大の反響があった。

出 品 目 録

◎油 彩

画 題	大 小	作 年	出 品 展
自 画 像	8 F	1929	
冬 の 女	30 F	1934	第2回東光展
校 庭 の 春	80 F	1934	第15回帝展
藤椅子に凭る女	120 F	1936	第1回文展
室 内 小 憩	80 F	1936	第1回大潮展
秋	150 F	1938	第6回東光展
戦 線 平 日	50 P	1938	第2回文展
ゆ う か り	50 P	1939	第7回東光展
麦 秋	50 F	1939	第3回文展
市 の 人 々	80 F	1940	2600年 奉祝展(日展)

雨 の 日	80 F	1940	第5回大潮展
焚火(鉱山の朝)	100 F	1941	第4回文展
炭 鉱 の 魚 売 り	80 F	1941	第9回東光展
炭 鉱 の 朝	50 F	1941	第9回東光展
病 床	30 F	1941	第6回大潮展
冬の子供(A)	50 F	1942	第10回東光展
冬の子供(B)	50 F	1942	第10回東光展
静 物	50 F	1943	第6回文展
少 年 の 頃	50 F	1947	第3回日展
庭 の 少 女	50 F	1948	第4回日展
傘を乾す画室	50 F	1949	第5回日展
椅子に凭るA子	50 F	1950	第16回東光展
晴着を着たK子	30 F	1950	第16回東光展

子供と紙風船	30F	1950	第16回東光展
白い服の少女	50F	1950	第6回日展
冷い朝	50F	1951	第17回東光展
画室にて	100F	1951	第17回東光展
画家の家族	120F	1951	第7回日展
裸婦を描く(A)	50F	1952	第18回東光展
裸婦を描く(B)	100F	1952	第18回東光展
ささやき	80F	1952	第8回日展
白い手袋	50F	1953	第19回東光展
晩夏	100F	1953	第9回日展
画学生の像	30F	1953	第19回東光展
娘たち	100F	1954	第10回日展
K子の像	80F	1956	第22回東光展
舞台裏の女	30F	1956	第22回東光展
午後の客	50F	1957	第13回日展
首飾りの裸婦	50F	1958	第24回東光展
椅子に凭る	100P	1958	第1回新日展
椅子に凭る	80P	1959	第25回東光展
椅子の裸婦	60F	1959	第25回東光展
裸婦とゴムの木	80P	1959	第2回日展
男の三人	80F	1960	第26回東光展
休みのポーズ	50F	1960	第26回東光展
対話	60変	1960	第3回日展
オーバーの女	80P	1961	第27回東光展
臥龍松	80F	1961	第4回日展
はなし	60F	1961	第27回東光展
女二人	80F	1962	第28回東光展
チェロを弾く	80F	1962	第5回日展
チェリスト	60F	1963	第29回東光展
調音	80P	1963	第29回東光展
老チェリスト	80P	1963	第6回日展
白杵勢至	80F	1964	第30回東光展
白杵勢至	80F	1964	第7回日展
エテン教会	80F	1965	第8回日展
裏通り	10F	1965	滞欧作品展
パンテオン裏通り	10F	1965	滞欧作品展
古い街	10F	1965	滞欧作品展
聖堂	80F	1966	第32回東光展
トレドの丘	80F	1966	第32回東光展

仔牛を荷う男の像	60F	1967	第33回東光展
古城の丘	80F	1967	第33回東光展
古城の橋	80F	1967	第10回日展
K子の座像	80P	1968	第11回日展
娘の婚礼	80F	1968	第34回東光展
コート of 娘	80F	1969	第35回東光展
平戸	80F	1970	第2回日展
午後の桜島	80P	1970	第36回東光展
港の丘	80F	1971	第3回日展
早春長崎	60M	1971	第37回東光展
港	80F	1972	第38回東光展
入江の聖堂	80F	1972	第4回日展
桜島	80F	1973	第39回東光展

◎水彩・素描

画題	制作年	出品展
広場	1964	滞欧スケッチ展
パリーの屋根	1964	"
サン・マルチン	1964	"
セーヌの滞船	1964	"
トレド風景	1964	"
パリーのモデル	1964	"
パリーの古い街	1964	"
パリーの路地	1964	"
トレドにて	1964	"
アテネの糸杉	1965	"
カイロの塔	1965	"
パリーにて	1965	"
冬のパリー	1965	"
カイロにて	1965	"
アクロポリス		
美術館にて	1965	"
子牛を荷う人	1965	"
牛をおさえるニケ	1965	"
コート of 娘 (エスキース)	1969	"
額あじさい	1972	
中央公園(色紙)	1973	

(14) 鍋島藩窯展

主 催 佐賀県立博物館
 会 期 昭和49年3月5日～3月24日
 会 場 大展示室
 観覧料 常設展と併設
 展 示 概 況

近世時代、肥前有田の陶磁器は、日本陶芸史の中で大きな光彩を放った。それには鍋島藩の陶業保護政策が、その基盤をなすものであり、藩自体も、寛永5年には副島喜左衛門を陶器方主任として藩窯を創設し他藩に類を見ない独自の職制を設け、一定の掟のもとにその運営にあたった。

製品は主として各大名、禁裏、公家などへの贈答用または注文品の製造で、食器が大部分であり、その技法は、白磁、青磁、染付、染付青磁、瑠璃、色鍋島に分かれ、盛期にはいづれも精巧無比な鍋島様式ができ、明治4年の廃藩置県まで約250年の間、藩の直轄下であって多くの名器がつくられた。

本展では古鍋島と云われる延宝(1673)～享保(1716)頃までの色鍋島、最盛期、後期の全期間にわたる資料を収集展示した。これは、東京国立博物館、栗田美術館、箱根美術館、岡山美術館をはじめ、県内外所蔵家の協力出品の賜で、総数150点を展示することが出来た。

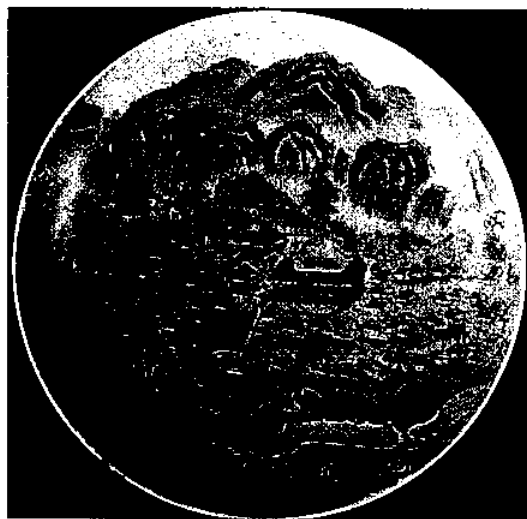
なお、伝世品のほか、関係古文書、注文絵形、製作工程の写真パネルや藩窯跡、工人の墓地、日峰大明神の台石碑文等の写真、土型とその製品、藩窯の職制パネル、藩窯の略年表等藩窯の全容を紹介するようつとめた。

出 品 目 録

古鍋島		“ 唐花つなぎ図皿	“ 19.7cm
色鍋島丸文菱形皿	径16.5cm	“ 紅葉幔幕図皿	“ 20.5cm
“ 烏瓜図平皿	径15cm	“ 房紐組合せ文皿	径20cm
“ 墨はじき波に花ちらし文皿	“ 15cm	“ 柴垣桜花波濤文皿	“ 20cm
染付錆草図変形皿	“ 15cm	“ 蒲公英図皿	“ 20cm
“ 更紗文皿	“ 15cm	鍋島青磁耳付花瓶	高20cm
染付青磁桜花文皿	“ 15cm	染付青磁雪景山水図皿	径20cm
“ 鶴文皿	“ 15cm	染付青磁波頭車文皿	“ 20cm
色鍋島柳につばめ図平皿	“ 15cm	瑠璃手くずや形香炉	巾14.5cm
染付青磁棕櫚文皿	“ 15cm	色鍋島桜図平皿	径20cm
色鍋島椿つなぎ文皿	“ 15cm	“ 椿花つなぎ文皿	“ 20.3cm
“ 更紗文平皿	“ 15cm	染付青磁雪の輪文皿	“ 20cm
“ 更紗文皿	“ 15cm	“ 地紋輪つなぎ文皿	“ 19cm
桜花詰文変形高台鉢		染付桜樹図皿	“ 20cm
藩窯盛期		“ 紗綾形文皿	“ 15cm
色鍋島巻軸文皿	径20.4cm	染付青磁桃文皿	“ 20.5cm
“ 葵文皿	径20cm	色鍋島芥子図皿	“ 20cm
“ 石楠文皿	径20.5cm	“ 小手毬文皿	“ 20cm
“ 桜樹文皿	“ 20.2cm	“ 牡丹唐草つなぎ文皿	“ 19.2cm

” 桜柴紋皿	” 20cm
染付椿図皿	” 20cm
色鍋島草花文蓋物	
” 雲堂文香炉	” 10cm
鍋島錆青磁葎図皿	” 20cm
染付籬朝顔文皿	” 20cm
色鍋島宝ずくし文八角皿	” 20cm
” 桃に宝ずくし文皿	” 20cm
” 菊唐花文皿	” 20cm
” 五方唐花文皿	” 20cm
” 薔薇文皿	” 20cm
” 糸巻文皿	” 20cm
染付籬朝顔図皿	” 20cm
色鍋島岩に牡丹図皿	” 20cm
色鍋島唐花三方割皿	” 20cm
染付五方唐花文皿	” 20cm
” 桃図桃形皿	” 20cm
” 青磁秋草文皿	” 20cm
色鍋島柴垣葛文大皿	” 30.8cm
” 橘図大鉢	” 30cm
” 花筏図大鉢	” 31cm
” 弾琴図台鉢	” 28.4cm
” 青海波紅葉萩図高台鉢	” 30cm
” 茶つみ図茶釜	高28.5cm
染付鷺図三足鉢	径30cm
” 橘図大鉢	” 30cm
” 青磁唐花丸紋皿	” 30cm
” 藤文大鉢	” 34cm
瑠璃地水玉文皿	” 11.2cm
色鍋島桜花御所車図皿	” 15cm
” 牡丹唐草図皿	” 15.3cm
” 棕櫚葉文皿	” 14.7cm
” 鶴鴿文皿	” 15cm
” 蜀江文皿	” 15.1cm
” 岩笹文皿	” 14.9cm
” 青海波紐結び文皿	” 11.3cm
” 杜葉文皿	” 11cm
” ひょうたん尽皿	” 15cm
染付青磁松図皿	” 11cm

色鍋島水あおい図皿	” 15cm
” 花籠紋皿	” 15cm
” 青海波水葵図皿	” 13cm
色鍋島青海波桜花籠図皿	” 15cm
染付青磁扇文皿	” 15cm
色鍋島五方唐花文梅形皿	” 15cm
” 御所車に桜文皿	” 15cm
” 松竹梅文皿	” 15cm
染付松図変形皿	” 15cm
” 手毬花図変形皿	” 15cm
” 兎図変形皿	” 15cm
” 唐草文皿	” 15cm
染付錆地棕櫚文皿	” 15cm
” 青磁花文変形皿	” 15cm
” 錆紬若松図皿	” 15cm
鍋島青磁つるべ形猪口	高20cm
小鉢類	
色鍋島更紗文猪口	
” 牡丹唐花文小鉢	
” 牡丹図小鉢	
” 朝顔図猪口	
” 唐草文 ”	
” 亀甲花文 ”	
染付九紋変形 ”	
染付瑠璃波に兎図深向付	
” 瑠璃芥子深向付	



染付藩窯絵図大皿

色鍋島地紋唐花三方割向付

藩窯後期

染付藩窯絵図大皿

径53cm

鍋島青磁水香炉

” 31cm

” 雲竜彫文文鎖

染付波に岩竹笹図高台鉢

” 30cm

” 萩に藤袴高台鉢

” 30cm

鍋島染付脚付向付（5客）

鍋島青磁草花文脚付向付（5客）

白磁棕櫚文向付（5客）

染付夜ノ梅図大鉢

径30cm

” 桜樹図大鉢

” 30cm

” 波千鳥文皿

” 20cm

” 絵草子文皿

” 20cm

” おもだか文皿

” 20cm

” 松に宝珠文皿

” 20cm

” 桃文大皿

” 30cm

” 秋海棠文大皿

” 30cm

錆釉流水魚文皿

染付竹の子図輪花形皿

” 桜図皿

” 松かさ形松図皿

鍋島青磁耳付花器

高20cm



色鍋島青海波紅葉萩図高台鉢

参考資料

1. 元禄6年

有田皿山代官江相渡手頭

1. 皿山代官旧記覚書

1. 乍恐奉願口上覚

（赤絵屋制度改革願文書）

1. 鍋島本家所蔵御注文御絵形

1. 江戸末期御絵形

1. 土型とその製品

1. 道具類

1. 藩窯跡出土磁器片

1. 色鍋島製作工程資料

写真資料

1. 鍋島藩窯登窯跡写真

1. 大河内山遠望

1. 日峯大明神

1. 台石の碑文

1. 陶工の墳墓

昭和48年度企画展ポスター

郷土の 先覚者書画展

主 題 郷土の先覚者書画展
期 間 7.14～8.10
主 催 佐賀県立博物館

色鍋島を中心とした
鍋島藩窯展
3月5日～3月24日
佐賀県立博物館

九州半導
工芸秀作展
9.29(土)～10.9(土)
佐賀県立博物館

●日本画●洋画●彫刻●工芸
**佐賀美術協会
創立60年記念展**
主催 佐賀県美術協会創立60年記念実行委員会
佐賀県教育委員会／佐賀県立博物館／佐賀美術協会
協賛 佐賀県文化会館
第1会場 佐賀県立博物館 6月15日～24日
第2会場 佐賀五層 6月15日～19日

第23回
県展
11.17～25
佐賀県立博物館
主催 佐賀県・佐賀市
協賛 佐賀県文化会館

第4回
日展
日本画・洋画・彫刻・工芸・書
月25日～9月23日
会場 佐賀県立博物館



装飾古墳壁画展
10・13～11・4
佐賀県立博物館

日 本
近代文学展
7.12.1～12.23
佐賀県立博物館

3. 昭和48年度観覧者総数

A. 常設展

観覧者数	人			団			招待者	優待券	合計	開館数	一日平均
	大	大・高	中・小	大	大・高	中・小					
展覧会名	大	大・高	中・小	大	大・高	中・小	招待者	優待券	合計	開館数	一日平均
佐賀県の歴史と文化展	9,652	1,782	3,636	1,103	1,191	5,898	1,101	178	24,541	163	150.5

B. 企画展

展覧会名	観覧者数			団体			招待者	優待券	合計	開館数	一日平均	備考
	個人	大・高	中・小	大・高	中・小							
野鳥展	2,300	1,389	675						4,364	(22)	436.4	常設展と併設
佐賀美術協会60周年記念展										10		
郷土の先覚者書画展	35,203	10,904	10,639	240	3,714	4,033	2,412		67,145	(24)	2,165.9	"
九州沖繩工芸秀作展	940	66	125	48	204		206		1,589	31	227.0	
理科作品展佐賀市支部展									1,733	7	577.6	"
装飾科作品展壁画展	2,670	451	898		251	1,224	611	51	3,474	3	868.5	
第23回佐賀県高等学校美術展	3,338	798	1,768	118	1,587	1,604	532		6,274	4	272.7	"
日本近代文学展	1,307	680	587	648					10,275	23	1,141.6	
郷土の新遺跡資料展	1,679	2,151	2,696		251	620	520	26	766	9	153.2	"
鶴石島					2,413	478	2,939		6,153	23	267.5	
合計	47,437	16,493	17,388	1,054	8,315	7,959	7,220	77	10,089	11	917.1	"
									4,443	(17)	493.6	"
										(17)		"
										9		"
										(17)		"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"
												"

48年度観覧者総数 (A+B)

観覧者数	人			団			招待者	優待券	合計	開館数	一日平均
	大	大・高	中・小	大	大・高	中・小					
観覧者総数	57,089	18,275	21,024	2,157	9,506	13,957	8,321	255	140,846	298	472.6

観覧者数	人			団			招待者	優待券	合計	開館数	一日平均
	大	大・高	中・小	大	大・高	中・小					
展覧会名	大	大・高	中・小	大	大・高	中・小	招待者	優待券	合計	開館数	一日平均
九州奎星会書道展									382	5	76.4

() 書きの開館日数は常設展併設のための内数である。

4. 普及活動

(1) 資料の刊行

○博物館報

年6回発行し、館蔵資料の紹介、行事のお知らせ、企画展の紹介、研究講座等の内容を写真入りで発行し、県内教育機関、社会教育団体等に配布し、館の利用促進をはかった。

発行回数	6回
印刷部数	1回 1,200部
形態	B5版 アート紙 8頁

○年報No.3

今年度は第3号を発行し、昭和47年度の博物館の管理運営、事業、資料等の概況を報告した。

印刷部数	800部
形態	B5版 アート紙 76頁
内容	博物館管理の概況 博物館事業の概況 博物館資料の概況 昭和48年度の事業計画

○郷土の先覚者書画

この図録は、7月14日から8月10日まで開催した「郷土の先覚者書画展」に伴って刊行したもので、幕末から明治初期にかけての本県先覚者52名をとりあげ、その書、画120点を写真により紹介し、釈文、出品目録、先覚者の略伝、先覚者生没年一覧を掲載した。

印刷部数	600部
形態	B5版 アート紙 90頁
内容	先覚者の書画 釈文 出品目録 先覚者の略伝 先覚者生没年一覧

○装飾古墳の壁画

この図録は、今年度の特別企画展として、文化庁の後援を受け東京芸術大学名誉教授日下八光氏の協力を得て開催した「装飾古墳壁画展」の内容を紹介した図録で、九州の装飾古墳はもちろん、大阪奈良、福島 of 装飾古墳60基をとりあげ未発表の装飾古墳の壁画を含め日下八光氏の監修により刊行した。

印刷部数	1,000部
形態	B5版 アート紙 170頁
内容	装飾古墳の推移……日下八光氏

装飾古墳壁画の模写・復元模写
 佐賀県の装飾古墳
 長崎・福岡・熊本・大分・本州の装飾古墳
 古墳時代の略年表
 装飾古墳編年表
 装飾古墳一覧表
 出品目録

○日本の近代文学

明治初期から現代まで、日本の近代文学史上すぐれた文学者 220名の著書、原稿、遺品等を一堂に展示した「日本近代文学展」の内容を解説、紹介したもので、近代小説、詩歌、俳句の流れ、文学者略伝等、佐賀大学教授米倉利昭氏、同大講師榎林滉二氏の援助により刊行した。

印刷部数 500部
 形 態 B 5 版 アート紙 76頁
 内 容 近代小説の流れ
 近代詩の流れ
 近代俳句の流れ
 郷土の文学
 県内近代文学関係文学碑一覧
 日本近代文学史年表
 出品目録

○鍋島藩窯

日本陶磁史上、特に異彩を放った鍋島藩窯の最盛期の名品のみならず、初期鍋島から藩窯末期にいたる色鍋島、鍋島染付、鍋島青磁を中心に発掘陶片、古文書類、御注文絵形等を一堂に展示し、藩窯の全貌をあきらかにした「鍋島藩窯展」の内容を紹介したもので、佐賀県文化財専門委員永竹威氏、佐賀西高等学校教諭池田史郎氏の援助により刊行した。

印刷部数 444部
 形 態 B 5 版 アート紙 62頁
 内 容 鍋島藩窯の史的背景と運営
 鍋島藩窯の様式美とその技法
 鍋島藩窯に関する史料について
 出品目録
 鍋島藩窯関係略年表

(2) 博物館研究講座

今年度は「郷土の先覚者書画展」「装飾古墳壁画展」「日本近代文学展」「郷土の新遺跡資料展」「鍋島藩窯展」の各企画展開催中に展示資料を中心とした研究講座を実施した。

期 日	演 題	講 師 名	聴講者数
昭48・7・28	近世美術史上における中央と地方	九州芸術工科大学教授 岸田 勉氏	57
48・10・13	装飾古墳壁画のしくみ	東京芸術大学名誉教授 日下八光氏	135
48・12・8	森鷗外と九州	作 家 劉 寒吉氏	220
〃	漱石と現代	梅光女学院大学長 佐藤泰正氏	
49・1・26	弥生時代から古墳時代へ —その文化と政治的背景—	県教育庁文化財調査監 木下之治氏	83
49・3・9	色鍋島の様式美とその技法	佐賀県文化財専門委員 永竹 威氏	135
計			630

(3) 移動博物館

普及事業の積極的推進をはかるため、博物館利用の機会にめぐまれない地域の人々のため移動博物館を実施しているが、今年度は川副町ほか3個所で実施した。

展示品は、川副町では当館所蔵の幕末から明治初期にかけて活躍した、古賀精里、副島種臣等の先覚者の書画16点を展示し、あわせて自然史資料の県内の岩石標本、昆虫標本、野鳥の標本をはじめ植物の分布パネル等を展示し、地元の自然が一目でわかるようにした。神埼町、鎮西町では上記の歴史資料のほか考古資料の先土器から古墳時代までを系統的に展示し、神埼町では、郷土コーナーが設けられ忠五郎山古墳の出土品をはじめ、神埼町民所蔵の先覚者書画をも展示した。鎮西町の郷土コーナーには肥前名護屋城関係の貴重な資料のほか考古の出土品も展示され、より充実した移動博物館となった。白石町では会場の都合で上記歴史資料の先覚者の書画だけを展示した。

会 場 名	期 日	期	観 覧 者 数
川副町中央公民館	昭48・10・9～10・11	3	2,183
神埼町役場	10・20～10・22	3	1,049
鎮西町役場	10・27・10・29	3	1,128
白石町中央公民館	11・3～11・5	3	677
計		12	5,037

5. 発掘調査

坂の下遺跡発掘調査

- (1) 発掘調査者 佐賀県立博物館（主催）
西有田町教育委員会（共催）
(2) 所在地 西松浦郡西有田町大木字山本
(3) 調査の名称 坂の下遺跡発掘調査
(4) 調査の目的

当遺跡は過去2回の発掘調査により、食糧として使用した木の実を貯蔵する縄文時代中期末の貯蔵穴跡であることが判明した。

しかし調査は一定区域に限定され、貯蔵穴跡の広がり、この貯蔵穴を使用した当時の住居等は未確認であるため、これらの遺構を確認する。

また、昭和41年の耕地整理以前の地質構造を明らかにするとともに、貯蔵穴構造の解明、貯蔵穴より出土する木の実より発芽の実験、土器や石器の他に数少ない木器の採集をおこない、当時の生活様式の解明を試みることを目的とする。

(5) 調査地点

過去2回実施された水田より、上段の水田に2m×4mの試掘溝を設定し、発掘調査を進める。

(6) 調査の期間

昭和49年3月6日～3月12日（7日間）

(7) 調査の組織

特別調査員 県立博物館協議会委員 岡崎敬
" 佐賀大学理工学部助教授 竹山尚賢
" 県教育庁文化財調査監 木下之治
調査員 県立博物館学芸課 手塚静雄
" " 尾形善郎
" " 志佐惲彦
" " 森醇一郎
" 西有田町教育委員会 岩永徳馬
" 西有田町文化財調査委員 吉永直
" 佐賀市教育委員会社会教育課 北原学

(8) 調査団本部 西有田町教育委員会

白蛇山岩陰遺跡

佐賀県立博物館調査研究書第1集の刊行

当館では昭和46、47年度、調査・研究事業の一環として、「佐賀県における先土器時代より縄文時代への編年の確立」という問題を提起し、伊万里市東山代町脇野所在の白蛇山岩陰遺跡の発掘調査を実施してきた。

発掘調査は、地元伊万里市教育委員会との共催で、地元研究会、佐賀大学の協力を受け、初期の目的を達成することのできる結果を得ることができた。

そこで、昭和48年度に資料整理、記録整理をおこない、「佐賀県立博物館調査研究書第1集」として発刊した。同書は元来の報告書の様式をかえ、各項目、各層位ごとに集約し、写真・拓本・実測図を、主な遺物については拡大図を使用し、容易に理解できるようにした。また巻末には理化学的分析結果と、県内の先土器時代、縄文時代の主要遺跡分布図、関係資料をも集録し、参考となるように試みた。

印刷部数 1,000部

形態 B5判、アート紙、86頁

内容

- ・遺跡の概要
- ・発掘調査の経過
- ・岩陰遺跡の層位
- ・各層の出土遺物
- ・遺物と層位
- ・層位の編年
- ・層位別土壌試料の理化学的分析
- ・佐賀県の先土器・縄文時代研究史
- ・佐賀県先土器時代遺跡分布図
- ・佐賀県縄文時代遺跡分布図
- ・佐賀県先土器・縄文時代編年表

資料の概況

1. 昭和47年度末資料の概況

資料は大別して自然資料、考古資料、歴史資料、美術工芸資料および民俗資料に分類しているが、その概況はつぎのとおりです。

資 料 約41,000点

自然史資料 約 4,800点

佐賀県地形模型（25,000分の1）
佐賀市街地図（2,500分の1）
唐津市街地図（2,500分の1）
恐龍（タイラノザウルス）の生態模型（2分の1）
原生代（コレニヤ）
古生代（パラフズリナ・シダ）
中生代（魚類・アンモナイト）
新生代（メタセコイヤ・シキシマバス・二枚貝・サメ・ヨコヤマオウムガイ）の各種化石
研磨した佐賀県の岩石標本
佐賀県の植物標本
天然記念物エヒメアヤメの生態模型
佐賀県のチョウ類標本
佐賀県の甲虫類標本
佐賀県の野鳥標本
天然記念物カササギの生態資料
・生態模式パネル
・生態写真
有明海・玄海の魚貝類標本
カブトガニの発生順序
有明海の干潟と生物の模型
・干潟の状態
・ムツゴロウ・ワラスボ・シャミセンガイ・アゲマキ等

考古資料 約18,100点

○先土器時代
尖頭器（杵島郡鬼の鼻山、多久市三年山・同茶園原遺跡出土）
細石器（馬渡島切立遺跡出土、伊万里市白蛇山岩陰遺跡出土）
○縄文時代
石器・土器（西有田町盗人岩洞穴出土、白蛇山岩陰遺跡出土）
西有田町坂の下遺跡出土の石器・土器・木器・編み籠の一部・木の実から発芽したアラガシの幼木

○弥生時代

三日月町土生遺跡出土の石器・土器・木器・炭化米・木の実
呼子町大友遺跡出土のカメ棺・装身具・伸展葬と屈葬人骨
唐津市桜馬場出土の鏡・銅釧・巴型銅器ほか（重要文化財）
北方町東宮裾・樺島山遺跡出土遺物の一括遺物
県内出土の各種銅鏡・銅剣・銅戈等
上峰村切通・唐津市葉山尻・神埼町八子遺跡等出土のカメ棺

○古墳時代

佐賀市熊本山出土の舟型石棺ならびに副葬品（県重要文化財）
県内出土の各種武器武具・農耕用具
基山町伊勢山遺跡出土の祭祀遺物
北方町永池古墳の線刻文様（人物）
鳥栖市田代太田古墳（史跡）の模型および同古墳の壁画模写図・同復原図
関行丸古墳出土品（県重要文化財）

歴史資料 約 1,200点

基肄城跡（特別史跡）出土瓦・国分寺跡出土瓦および同寺瓦窯跡出土瓦
県内出土の蔵骨器・在銘経筒
木造聖観音立像（重要文化財模造）
木造円鑑禅師坐像（重要文化財）
八字文珠菩薩騎獅図像（県重要文化財）
水上懸仏（県重要文化財）
肥前鐘（県重要文化財）
今山合戦関係資料
豊臣秀吉の朱印状ほか文禄慶長の役関係資料
肥前名護屋城図屏風、朝鮮国禮曹の通諭文
島原の乱関係資料
藩政時代絵図および文教資料
佐賀藩精煉方関係資料
佐賀藩精煉方製造蒸気車雛形（鉄道記念物）同 蒸気船雛形
石造物（観音像・地藏像・五輪塔・板碑・六地藏・三重塔・名護屋城旗竿石など）
パリー万国博覧会（慶応3年）参加関係資料
戊辰の役、佐賀の乱関係資料
郷土の先覚者の書・画等

美術工芸資料 約16,100点（陶片を含む）

○書跡

副島蒼海・中林梧竹・西川春洞・大坪穆軒の書

○絵画

高橋由一（蛙）

百武兼行（イタリア風景・マンドリンをもつ少女・老婦人像）

久米桂一郎（フランス風景・りんご拾い・加茂川の新緑・ゼーヴル橋畔）

小代為重（久米桂一郎肖像・少女・テームス河畔）

岡田三郎助（花野・バラ）

藤島 武二（裸婦・婦人像）

青木 繁（ランプ・男の像・神話・夕焼の海・佐賀風景・浴女・かるた5・木下大尉の肖像・絵葉書・書）

高木背水・北島浅一・御厨純一・武藤辰平・山口亮一ほか本県関係の代表的画家の作品

○刀剣その他

肥前忠吉初代・2代・3代・6代・7代・9代（刀・短刀・槍先）およびその他の肥前刀匠の作品・小道具・鎧・火なわ式銃・大筒

○陶磁器

古唐津系（茶碗・皿・鉢・大鉢・水指・徳利・花瓶・大壺）

初期伊万里系（茶碗・皿・徳利）

古伊万里系（VOC商標入皿・鉢・水指・徳利・角瓶・婦人像）

柿右衛門系（深鉢・徳利・壺・陶板）

鍋島藩窯系（皿・大皿・青磁花器）

県内の古窯跡出土の陶磁器片（各種）

民俗資料 約800点

有明海の漁撈具（重要民俗資料）・玄海の捕鯨用具一式

田代製薬関係資料

製蠟関係資料

採炭用具一式

石造物

2. 昭和48年度購入資料

① 自然史資料

品 名	数量	規 格	製 作 者
エヒメアヤマ開花生態模型	1	移動用車付・ガラスケース 105×155×180cm	京都市東山区山科柳辻池尻 町48 西尾製作所
アオサギ	1	剥製標本、木台付	神埼郡三瀬村岸高 山本 幸彦

② 考古資料

品 名	作 者	数 量	規 格 (cm)
(装飾古墳模写図)			
竹原古墳壁画 朱雀 復原模写図	日下 八光	1 面	90× 70
王塚古墳左袖石壁画 馬の図 復原模写図	全 上	"	107× 135
王塚古墳右袖石壁画 馬の図 復原模写図	全 上	"	107× 135
高井田横穴線刻画模写図	全 上	"	113× 69

③ 歴史資料

品 名	作 者	数 量	規 格 (cm)
(先哲者の書画)			
秋草図自画賛	古川 松根	1 幅	掛軸装 紙本淡彩 136.5×63.0
春草図 "	"	1 幅	" " "
魏文帝燕歌行 八行書	大木 喬任	1 幅	" 絹本黒書 149.0×65.5
送行之序	枝吉 神陽	1 面	額装 絹本墨書 42.0×91.2
浩然古詩屏風	洪 浩然	1 双	6 曲 1 双 紙本墨書 各扇 131.0×53.0
醉李図 七言絶句	草場 船山	1 幅	掛軸装 " 149.5×55.7
撒空煙火云々 二行書	佐野 常民	1 幅	" " 147.5×40.4
欲送一生云々 二行書	古賀 穀堂	1 幅	掛軸装 紙本墨書 98.0×22.8
蘭図并題詩	"	1 幅	" " 128.5×28.5
誠者物之云々二行書	富岡 敬明	1 紙	捲り " 140.0×48.5
千年小畔云々 七言絶句	佐野 常民	1 紙	" " 179.2×48.7
穀堂古詩屏風	古賀 穀堂	1 双	6 曲 1 双 " 各扇 128.0×50.2
宝船図自画賛	古川 松根	1 幅	掛軸装 絹本著色 118.8×49.2
古事類苑	神宮司庁編	51冊	活字本 大正3年完結本各26.0×18.5
詩稿 守歳	相良 知安	1 幅	掛軸装 紙本墨書 16.5×44.5
滝花移石云々 七言絶句	鍋島 直與	1 幅	" " 111.2×29.7

④ 美術工芸資料 (絵画)

品 名	作 者	数 量	規 格 (cm)
佐賀風景	青木 繁	1	油彩 板 1910年 22.5×33
裸婦	村岡平蔵	1	油彩 カンヴァス 145.5×97
四季花鳥図	成富椿屋	1	絹本着色 141×83
月夜に竹図	中林梧竹	1	紙本水墨 152×83

(彫塑)

品 名	作 者	数 量	規 格 (cm)
牛に乗る	古賀忠雄作	1	ブロンズ 総高43.5、総長58

(書)

品 名	作 者	数 量	規 格 cm
「揮毫走秋校云々」	中林梧竹書	1	142×45
「桜花行七言絶句」	副島種臣書	1	174×74

(陶磁器)

品 名	数 量	規 格 cm
染付山水図四方摺文皿・(初期伊万里系)	1	径20.4
染付山水図日輪文皿	1	径21
染付葡萄蝶文皿	1	径18.5
絵唐津深向付	1	口径10、高9.5
梅花図歌字文注器一対(古伊万里系)	1	口径6、高15.6

3. 昭和48年度寄贈資料

① 自然史資料

品 名	数量	規 格 cm	寄 贈 者
岩石標本(28種)	1箱	12×21 木箱入	ブラジル、パラナ州 佐大留学生 原 美代子
屋久杉		140×134×22 木台付	杵島郡大町町本町1班 永尾繁雄方 佐賀県木材荷壮年連合会より佐賀県 へ。49.1.15 林務課長から管 理がえ

② 歴史資料

品 名	数量	規 格 cm	寄 贈 者
小笠原長生筆 水兵の母外	25点	捲り 書15点絵6点色紙3点扇面1点	小笠原フサ
染付 山水図蓋	1口	古川松根筆 白磁 径26.7	富岡 ふみ
黒漆葵紋金具付長持	1合	木製 80.5×174.0×78.0	木下 ワカ
ペリー見聞記	1冊	和綴墨書 23.5×16.0	柿久 勇

天保2年御目付方覚	1面	板書 31.5×177.5	立石 太蔵
山岡鉄舟書 落花云々外	9点	捲り、紙本墨書 135.5×66	深川 適二
直茂公 21ヶ条	1冊	和綴墨書 26.5×19.0	富岡 ふみ
直茂公 御物語	1冊	” 芝田宗春聞書 26.2×19.0	”
愚見集	1冊	” 22.5×17.5	”
使節一件口上	1冊	” 27.0×19.0 天保15年松本拵	”
佐賀の乱口述書	1冊	” 26.5×18.2 江藤、島、山中、朝倉、香月	”
皆川棋園 古詩屏風	1双	6曲1双 紙本墨書 各扇 129.5×46.5	光武 俊和
村岡長太郎 写真 書簡	2点	写真 19.0×13.0 昭和3年11月16日撮影 書簡 18.1×88.5 昭和3年11月23日付	村岡ハツヨ
李完用墨跡	1点	紙本墨書 125.5×32.0	陣内 利夫

③ 美術工芸資料

品 名	数量	規 格 cm	寄 贈 者
松に鶴図 成富椿屋筆	1	紙本淡彩 124×41.5	陣内 利夫

4. 昭和48年度寄託資料

① 自然史資料

品 名	数量	規 格	寄 託 者
化石（ヨコヤマオウムガイ）	1	径45cm、40kg 東松浦郡北波多村稗田站返り産	伊万里市南波多町井手 野赤坂 前田 弘

② 歴史資料

品 名	数量	規 格
名護屋城跡出土鐙瓦片	1口	五三桐紋付、径14.3cm
慶応3年パリ万博記念資料	32点	フランス花瓶1、英国製顕微鏡1、英国製サラダオイル4 色ガラス皿16、出品カタログ類10
草場颯川屏風	3双	竹画12題6曲図1双、大小竹図6曲1双、花卉図6曲1双
竜造寺関係資料	18点	鐙7領、肖像画2点、その他陣笠など
蒸気車雛形1組	1基	全長39.7cm 全高31.2cm、貨車2輛、レール1組、佐賀藩 精煉方製
蒸気船雛形（外輪形）	1艘	全長68.2cm 全高40.0cm 佐賀藩精煉方製
”（スクリー型）	1艘	全長87.0cm 全高56.9cm 佐賀藩精煉方製
谷口藍田書七言絶句	1幅	掛軸装、絵本墨書、瓊鯨昨夜云々 138cm×34cm

「学」入棟瓦	1口	幅43.5 全高67.0
上林文書屏風	1双	上林文書72枚(55通) 張合せ6曲1双
大般若經写經	2葉	51×26.5 善非善増、耳識○及

③「美術・工芸資料」 (絵画)

品 名	規 格 cm	寄 託 者
十六善神像図	絹本着色 107.5×56.5	広 福 寺
阿弥陀八大菩薩像図	絹本着色 152.3×86	〃
釈迦三尊及眷属像図	絹本着色 168×57	〃
揚柳観音像図	絹本着色 112.5×63.5	〃
善財童子歴参図	絹本着色 106.5×59	〃
釈迦涅槃図	紙本着色 150×102	天 福 寺
十六善神像図	紙本着色 78×39	〃
十王絵図	紙本着色 各153×51.3	〃
七夕図	紙本着色 43×56.5	〃



ア オ サ ギ

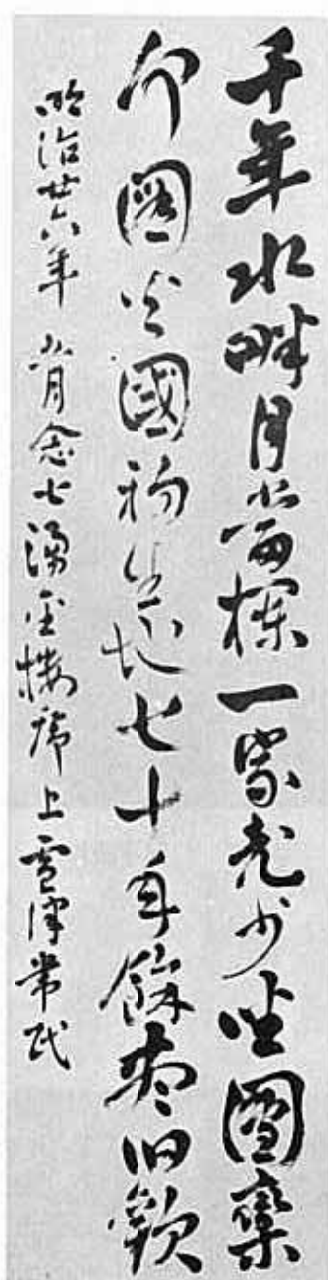


高井田横穴

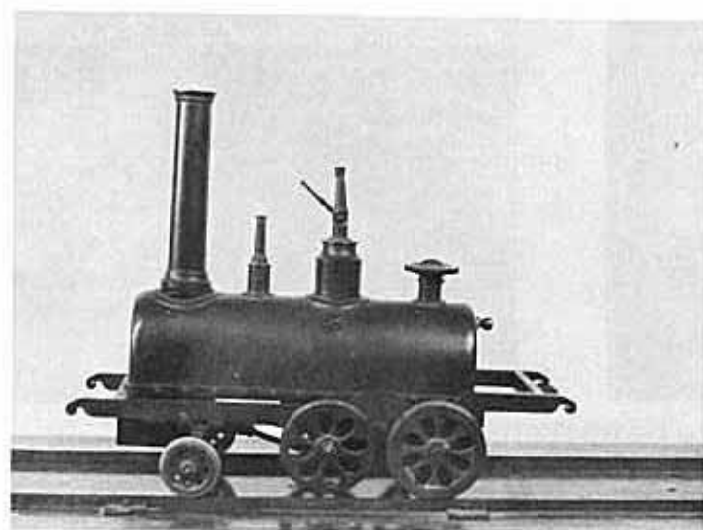
人物の窟線刻壁画 (模写図)



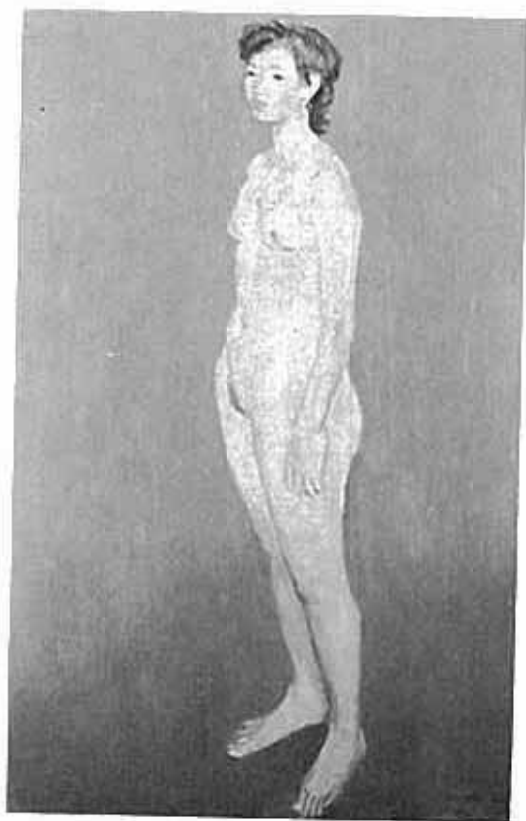
四季花鳥図 成富椿屋



佐野常民書



蒸気車雛形



裸 婦 村岡平蔵作



牛に乗る 古賀忠男



古伊万里 梅花図欧字文注器一対



佐賀風景 青木 繁

茶室の発足と管理の概況

1. 茶室「清恵庵」の発足

このたび旧佐賀城三の丸址の博物館の南側お堀端に、県民待望の茶室清恵庵が見事に竣工した。その落成式はさる10月10日の秋晴の佳き日に、寄贈者市村幸恵氏をはじめ、池田知事ほか関係者来賓多数の出席の下に行なわれ、記念すべき茶室開きと野点も、裏千家談交会佐賀県支部の方々のご協力で厳しゆく、かつ和やかな雰囲気のもとにとり運ばれた。

建築面積は57.35 平方メートルで、茶室四畳半につづき、七畳半は書院造りの「控」の間となっており、水屋や寄付などはいうまでもないが、小さい台所や化粧室もあり、かなり多人数のけい古茶や茶会にも利用できるように設計が行き届いている。

また、竹の生垣をめぐるして露地が構成され、特に南面は春夏秋冬の季節の移り変わりの中でさまざまな景観をつくり出すお堀をそのまま「庭」の1部として見立て、水面に舟だまりをこしらえ、建物が水面に映えるようにした構造は訪れる人々の心をとらえてはなさない。

(1) 落成式

場所 佐賀県立博物館南側

日時 昭和48年10月10日

—— 落成式式次第 ——

- ・ 神事 松尾建設
- ・ 茶室開き 亭主 市村幸恵
 招客 知事ほか18人

(2) 落成寄贈式

- ・ 開式 瀬戸口教育長
- ・ 茶室寄贈 市村幸恵
- ・ 感謝状及び記念品贈呈 池田知事
- ・ 挨拶 市村幸恵・池田知事
- ・ 工事経過報告 早川正夫
- ・ 祝辞 佐賀県議会議長
 佐賀新聞社長
 茶道代表 竹田恒夫
 内田東大教授
- ・ 祝電披露 古賀博物館長
- ・ 閉式 瀬戸口教育長

茶室落成披露茶会 裏千家談交会佐賀県支部

(3) 知事のあいさつ

菊花馥郁と咲きほころ今日の佳き日に、市村幸恵夫人をはじめ来賓多数のご臨席をえて、故市村清先生のご寄贈になる茶室「清恵庵」の落成の式典を挙行できましたことはまことに慶びにたえない次第であります。

そもそもわが国の茶道は、その淵源を遠く奈良朝時代に発し、その後、南北朝から室町初期に入りまして闘茶として当時の上流社会にたしなまれましたが、これが次第に和様化され連歌の会所で行なわれるようになったのであります。

本県においても今を去る 780年の昔、榮西禪師によって背振山中にもたらされた茶樹が日本茶のはじめといわれ、本県と茶との関係は古来きわめて深いものがあります。

その後、天才・千利休によって創始された茶道が伝承されて現代に至っていることはすでにご案内のとおりであります。

茶人は茶室にはいつて自然と融合し、無限に広い天地を知ることができるといわれますが、このような、わが国古来の伝統芸術である茶道の象徴ともいべき茶室「清恵庵」が本日ここに落成の運びとなりましたことは、広く県民の情操陶冶と本県茶道芸術の発展のためまことに慶祝にたえません。

茶室「清恵庵」は、わが国実業界に不朽の名声を馳せられた、故市村清先生のご遺志により早川設計事務所ならびに、斯界の最高権威者であります堀口捨己先生の設計ならびに指導を仰いで見事に完成したのであります。施工を松尾建設株式会社が担当され、その持てる最高の技術を集中された茶室建築の傑作であります。

加うるに水と緑に恵まれた城内公園の環境を背景に、多くの県民の方々が茶室「清恵庵」のたたずまいの中で「わび」「さび」の心を十分に味わいうるよう配慮されているのであります。

私は、この茶室「清恵庵」落成の佳き日に、故市村先生が温顔に微笑をたたえて、私たちの喜びの式典をあたたく見守っておられるものと確信いたします。

私たちは、郷土を熱愛されてやまなかった故市村先生のご遺徳を改めてしのぶとともに、県民各位とともに茶室「清恵庵」を大切に守りついでゆかねばならない責任を痛感するものであります。

なにとぞ、わが国の伝統芸術たる茶道を通じて、県民の皆さんが情操をみがき、心を豊かにされる場として、茶室「清恵庵」を末永くご愛用下さることを願ってやみません。

最後に、故市村先生のご遺志をついで茶室完成に心を砕かれた市村夫人をはじめ、関係者の皆様に対し深甚の謝意を捧げるとともに、ご繁忙の中を本日の式典のためご来臨賜りました多数のご来賓の皆様にお礼を申しあげまして、ごあいさつといたす次第であります。

昭和48年10月10日

佐賀県知事 池 田 直

(4)「清恵庵」設計者のことば

文化財保護専門委員 堀口 捨己

清恵庵は、ひろく一般に公開して県民文化の向上に寄与したいという故市村清氏の遺志によって建てられたもので、敷地も、博物館のある城内公園の一部に選ばれ、また、そこにこの建築のおのずからなる性格とかたちが生れた。

建物は、四畳半の茶室を中心に、やや多目的な含みをもった七畳半の広間をそえて構成し、茶の湯のほかにも華道の稽古や句会などにも利用されることを考慮した。

敷地南側の外濠の水面を庭と見立て、小舟で乗り入れることもできるよう、水際にのりだす構造とした。

護岸に用いた石は、もと濠の対岸に積まれていた石垣の一部を再使用したものである。

(5) 感謝状を授与されたものの氏名

茶室寄贈者 市村幸恵 東京都太田区北馬込1-26-10

設計者 堀口捨己 東京都太田区山王4-6-5

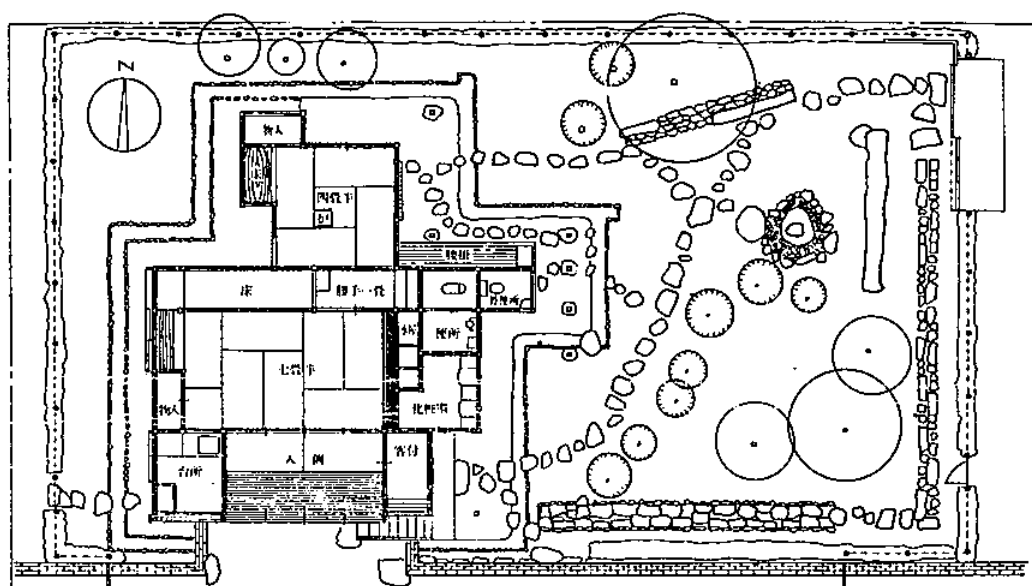
早川正夫 東京都港区南青山5-9-12 アイザワビル

施工者 松尾文雄 佐賀市多布施2-4

(6) 茶室の規模および施設

構造 木造平屋建寄棟造 規模 建築面積 57.35m²

茶室平面図



2. 茶室「清恵庵」の管理の概況

(1) 茶室の条例規則

佐賀県立博物館の管理に関する規則の一部を改正する規則

規 則

佐賀県立博物館の管理に関する規則（昭和45年佐賀県教育委員会規則第10号）の一部を次のように改正する。

第15条中展示室の下に「及び茶室」を加える。

附 則

この規則は昭和48年10月11日から施行する。

佐賀県行政財産使用料条例等の取扱いについての一部を改正する

地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の4第3項及び佐賀県立博物館の管理に関する規則（昭和45年佐賀県教育委員会規則第10号）第15条の規程に基き、佐賀県立博物館の大展示室・中展示室及び茶室の使用を許可する場合の事務手続き及び使用料については、佐賀県行政財産使用料条例（昭和39年佐賀県条例第33号）及び佐賀県公有財産規則（昭和40年佐賀県規則第6号）を適用し、関係条項の取扱いは、下記のとおりとする。

記

1. 大展示室・中展示室及び茶室の一時使用許可の手続きについては、佐賀県公有財産規則第20条の規定によることとする。
2. 前項の許可による使用料の額は、佐賀県行政財産使用料条例の別表中「講堂、体育館及びこれに類するもの」に該当するものとしてその額を定めるがこの場合、昭和39年12月17日付管第 642号の総務部長通知による定めにかかわらず、実情に即して下表によることとする。

名称構造等	面積 (m ²)	期 間 (時間)	使 用 料 (円)
大 展 示 室	523.5	4	1,500
中 展 示 室	136.0	4	500
茶 室	57.35	4	1,500

3. 前項の使用料の減免について佐賀県行政財産使用料条例第5条を適用する場合その取扱いについては前項の総務部長通知の運用によることとする。
4. 大展示室・中展示室及び茶室を使用させるさいの光熱水費等については、前項の総務部長通知の取扱いによることとし、なお光熱水費等の徴収額は、下表のとおりとする。

区 分	大展示室	中展示室	茶 室	備 考
冷暖房しない場合	310	70	30	1時間当り
冷 房 の 場 合	840	140	—	〃
暖 房 の 場 合	590	130	—	〃

※参考 (改正後)

第15条 館長は、博物館の業務に支障のない範囲内において、大展示室・中展示室及び茶室等の施設を博物館事業に係る行事のために使用させることができる。

(2) 佐賀県立博物館茶室「清恵庵」使用規程 (昭和48年10月20日
佐賀県立博物館規程第26号)
(趣 旨)

第1条 佐賀県立博物館茶室清恵庵 (以下「茶室」という) の使用については、この規程の定めるところによる。

(使 用 申 込)

第2条 茶室を使用しようとする者は、茶室使用申込書 (別記様式第1号) により使用期日の10日前までに佐賀県立博物館長 (以下「館長」という) に申し込むものとする。

(使用の許可)

第3条 館長は、前条の申し込みによる茶室の使用を認める場合は、茶室使用許可証 (別紙様式第2号) を交付するものとする。

(許可の取消等)

第4条 館長は、茶室の使用許可を受けた者が次の各号の1に該当する場合は、使用の許可を取り消し、又は使用を中止させることができる。

1. 茶室使用申込書に虚偽の記載があったとき。
2. 許可の条件に違反したとき。

3、関係職員の指示に従わなかったとき。

2、前項の許可取消等により生じた損害についての補償は行なわない。

附 則

この規程は、昭和48年10月20日から施行し昭和48年10月11日から適用する。

(3) 茶室の利用状況

茶室「清恵庵」の利用については、学校の茶道グループ、あるいは県内の各流茶道グループ、そのほか茶道の同好会などにより巾広く利用され好評を得ている。月別にみた利用状況は下表のとおりである。

年月	月	利用団体数	利用者数 (名)	見学者数 (名)
48.	10	—	35	224
	11	3	8	224
	12	1	65	80
49.	1	4	105	44
	2	4	207	86
	3	6	207	107
合 計		18	420	1,161

(4) 茶道具資料 (約 126点)

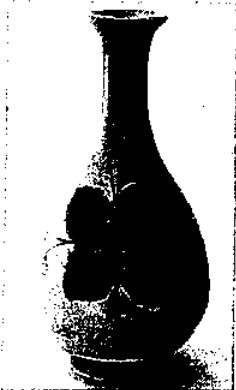
品 名	数量	規 格
朝鮮唐津水指 	1	中里重利作
朝鮮唐津掛花入	1	中里重利作
流し文花壺	1	丸田正美窯
掛軸	1 幅	大徳寺桃林筆
鉄絵茶碗 	3	丸田正美窯

和紙染三つ葉夏茶碗	1	小山路窯
茶碗	25	"
青磁茶碗	2	川副青山作
和紙染花文茶碗	3	小山路窯
竹蓋置	1 双	
粉引鉄絵水指	1	小山路窯
砂張銅鑼	1	
炉縁	3	真塗1、本桑1、柿合1
風炉釜切合せ唐銅	1	
道安風炉釜	1 式	釜1、小板1、道安風炉1
筋入炉釜	1	環付き
菊桐地紋炉釜	1	"
釣釜	1 式	敬典作、釜1、鎖1、弦1、環1
竹茶杓	1	瑞雲作
丹波茶入	1	陶谷作
吹雪甃	1	友治蒔絵
香合	1	井上萬二作
色鍋島香合	1	12代今右衛門作
色鍋島牡丹文香炉	1	12代今右衛門作 "
		
染付火入	1	12代今右衛門作
		
きせる	1	金屋五郎三郎作
菰盆	1 式	きせる1組、煙草入1、菰盆1、竹筒1
竹台子	1	
小卓	1	桑製
丸卓	1	桐製
長板 (夏・冬)	1 組	
椽高	1	真塗

菓子器	4	丸田正美窯
とくさ絵建水	1	小山路窯
粉引鉄絵建水	1	"
鉄絵柳絵文建水	1	丸田正美窯
建水（唐銅）	1	
風炉先屏風	2	桑縁
薄板（3枚組）	1	真塗
七事式用具の一部	1	
脇取盆	1	真塗
水次	2	
花水次	1	
鉄びん	1	
緋毛氈	10	
小座布団	10	
円座	11	
花むしろござ	1	
丸三宝俵のし	1組	
水屋用炭取箱	1	桑製
白鳥の子紙張屏風	1	
露地簀	1	

寄贈

品 名	数量	規 格	寄 贈 者
短冊簞笥 	1 式	なつめ1、茶碗（夏・冬）2、 水指1、建水1、蓋置1、柄杓 杓1、簞笥1	市村幸恵
花瓶	1	真鍮製	"
掛軸	1 幅	淡淡斎宗室筆	"
	1 幅	希斎宗有筆	清水宗幽

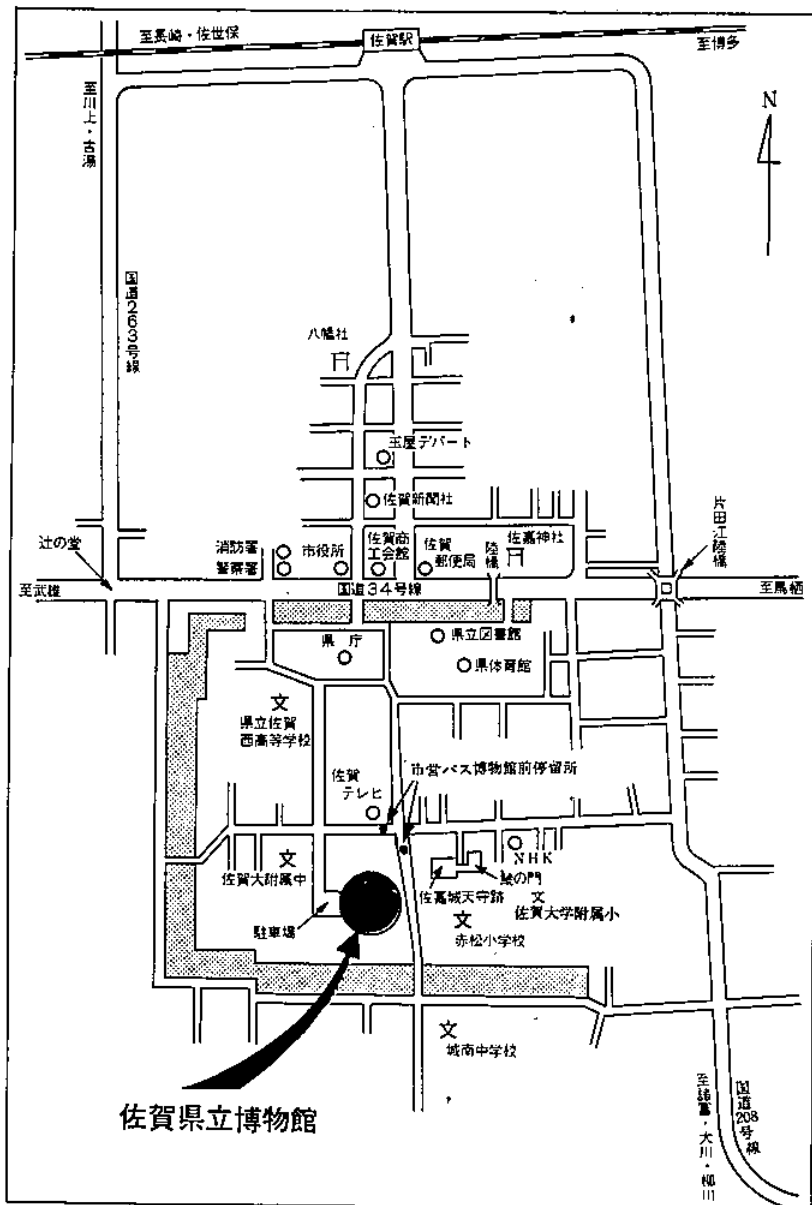
唐津奥高麗手茶碗 	1	13代中里太郎右衛門作	無津呂重雄
唐瓶花 和紙染花押花瓶 	1	備前焼	田中丸善次郎
色鍋島蓋置 こげ縁 助炭	1	小山路窯	江口勝美
	1	12代今右衛門作	今泉今右衛門
	1	桐製	杉山宗貞
	1	桐製、白鳥の子紙張	"

昭和49年度の事業計画

常 設 展			
佐賀県の歴史と文化展	49年4月1日～6月15日 7月14日～9月1日 12月7日～3月31日	1・2・3号展示室	月曜休館

企 画 展			
展 覧 会 名	会 期	会 場	備 考
佐賀県の漁撈と水鳥展	49年5月10日～6月9日	大 展 示 室	常設展と併設 月曜休館
日本陶磁の ふるさと古伊万里展	6月23日～7月7日	3号大展示室	会期中無休
松本弘二遺作展	7月20日～8月4日	大 展 示 室	常設展と併設 月曜休館
東光会展	9月7日～9月16日	1・2・3号展示室	会期中無休
理科作品展	9月15日～9月25日	大・中展示室	〃
岡田・久米 百武三人展	9月21日～10月23日	1・2・3号展示室	〃
第24回佐賀県美術展	11月2日～11月10日	1・2・3号・大・中展示室	〃
松方コレクション展	11月16日・12月1日	1・2・3号・大・中展示室	〃
佐賀県高等学校美術展	12月18日～12月22日	大・中展示室	〃
新遺跡資料展	50年1月25日～2月23日	大 展 示 室	常設展と併設 月曜休館
肥前名刀展	3月2日～3月23日	大 展 示 室	会期中無休

案 内 図



交 通 機 関

佐賀駅から市営バス市内右廻り博物館前下車
左廻り

各バス（昭和、祐徳、市営）で県庁前下車

南へ300m 徒歩12分

佐賀県立博物館年報 第4号

発行年月日 昭和49年6月1日

編集発行 佐賀市城内1丁目15-23
佐賀県立博物館

印刷 合資会社 音成印刷所

佐賀県立博物館

〒840 佐賀市城内一丁目15-23 TEL (4)3947